



特集

多彩に進化する日本の船旅

KAIUNアプローチ

デジタルツインはどのような技術？

グラビア

川崎汽船が自動車船へ鉄道車両の積み込みを公開



ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

“AS ONE, WE CAN.”
運んでいるのは、ひとり一人の毎日。

OCEAN NETWORK EXPRESS (JAPAN) LTD.
<https://jp.one-line.com>



CONTENTS | 2026年7月号 | No.1186

KAIJUN



Cover
©AaronChenPS2 / Shutterstock.com

特集

29 多彩に進化する日本の船旅 —クルーズからフェリーまで—

メールインタビュー

30 クルーズは特別な贅沢ではなく 日常の延長にある旅の選択肢

郵船クルーズ株式会社 企画マーケティング部 部長 岡田 ひろみ 氏

インタビュー

34 寄港地と連携して振興を図り クルーズ・地域ともに発展していく

商船三井クルーズ株式会社 執行役員 中嶋 一馬 氏

38 船旅の魅力を伝える努力が必要 “楽しさ”“自由さ”を体感してほしい

新日本海フェリー株式会社 経営企画部 部長 中山 晃一 氏

42 カーフェリーが現役層の入り口に 快適な船旅の成功体験を届ける

太平洋フェリー株式会社 執行役員 旅客営業部長 大塚 昌弘 氏

46 景色や食を楽しみ船内を堪能する 船旅人口増へ鍵は若年層への訴求

イラストレーター PUNIP cruises 中村 辰美 氏

WORLD MARINE グループ



— 船舶管理・内外船員の紹介 —
ワールドマリン株式会社
WORLD MARINE CO., LTD.

〒142-0062 東京都品川区小山6丁目27番13号
E-mail: bussdept@worldm.co.jp
URL: <https://www.worldm.co.jp/>



— 海運業(船舶貸渡) —
千葉商船株式会社
CHIBA SHIPPING CO., LTD.

〒142-0062 東京都品川区小山6丁目27番13号
E-mail: business@chibaship.co.jp
URL: <https://www.chibaship.co.jp/>



Panama, evolving with firm standards to ensure a safe course



西日本の海運関係者の皆様へ

西日本の海事サービスに関する具体的な情報については、領事館のウェブサイト
<http://www.panakobeconsulate.jp/> をご覧ください。

技術的なお問い合わせ・サポートにつきましては、SEGUMAR今治までご連絡ください。
Email: segumar@segumarimabari.jp | Tel.: +81 898-36-1188

また、私たちのソーシャルメディアもご覧ください。
Facebook: <https://facebook.com/panakobeconsulate.jp>
Instagram: <https://www.instagram.com/panakobeconsulate.jp/>

KAIUNアプローチ

- 24 デジタルツインはどのような技術？**
— 海事産業での活用方法を探る —

グラビア

- 14 自動車船へ鉄道車両の積み込みを公開**
High & Heavy貨物の輸送を強化へ
川崎汽船

緊急企画

- 56 ホルムズ海峡クライシス News Log4 — 4月26日~6月19日 —**

シリーズ etc.

- | | |
|---|---------------------------|
| 5 旅と船 第28回 伊豆半島から出る東京諸島航路
～フェリーあぜりあ | 68 ブローカーの窓から |
| 7 竣工船フラッシュ | 70 造船ニュース |
| 23 CLOSE UP 今治造船 ほか | 72 NEWS Pick Up |
| 52 せんきょう(日本船主協会) | 76 内航ニュース |
| 66 研修講座・セミナーのご案内 | 99 LOOK BACK KAIUN |
| | 100 スタッフ通信 |



一隻の船舶、無数の使命

- 重量物・モジュール輸送
- 艀船業務
- 国際複合一貫輸送
- 貨物船のBT-BT対応輸送

 **天洋汽船株式会社**
TENYO KISEN CO., LTD.

TEL: 03-3526-4228
www.tenyokisen.co.jp
E-mail: tenyokisen@tenyokisen.co.jp
〒101-0047 東京都千代田区内神田3丁目
22番7号JS神田多一ビル8階

私たちは 海の総合コンサルタントです。



当社操船シミュレータ

事業内容 (一部)

1 海事コンサルティング

- 航行安全対策 ●港湾計画 ●船舶航行実態調査

2 船舶運航コンサルティング

- 船舶検船 ●安全監督 ●建造監督 ●保守管理

3 海外造船海運コンサルティング

- 造船事業計画支援 ●造船施設建設支援
●海運事業計画 ●シブプリサイクル計画

4 船員サポート

- 船員支援 ●船員エスコート ●船員派遣
●国際船員支援

5 海事教育訓練

- シミュレータによる操船訓練 ●BRM講習
●PEC講習 ●ECDISTレーニング

6 システム販売、他

- 操船シミュレータ ●離着桟橋支援システム
●大型三次元振動台による振動試験

7 潜水事業

- 船体水中検査 ●船体水中クリーニング
●プロペラ研磨 ●船体ダメージ補修・その他

 株式会社 日本海洋科学
Japan Marine Science Inc.

www.jms-inc.jp

旅と船

絵・文 PUNIP cruises / 中村辰美



第28回 伊豆半島から出る東京諸島航路～フェリーあぜりあ

東日本地方の南方沖合に浮かぶ伊豆大島や八丈島などの離島が連なる伊豆諸島は東京からの船便が昔から多く就航している。行政的にも経済的にも便利のため東京都に属しているが地図で見ると一番近い本土は静岡県の伊豆半島であり、位置的には東京とはだいぶ離れている。そのため伊豆半島の南端に近い港町である下田からも明治時代から島に行く船が出ていた。

川端康成の小説「伊豆の踊子」のヒロインもこの航路で大島から下田にやってきた設定になっている。戦後は東海汽船が「あじさい丸」という貨客船で下田から新島～三宅島～神津島をむすぶ航路を開設。その後、その航路は現在の神新汽船に引き継がれて新島～式根島～神津島航路となり、やがて利島が追加され船も「あぜりあ丸」に替わり、2014年について望みの新造船「フェリーあぜりあ」が就航した。

本船は島民の要望によりトカラ列島航路の「フェリーとしま」を参考に東京諸島初のカーフェリーとなったが、波や風が荒い離島での自走上陸が難しいケースを想定し、船体前部には吊り下げ式荷役装置と貨物艙を備えている。

下田港を朝に出港し、先に述べた利島、新島、式根島、神津島の4島を回って夕方に戻る約7時間の航路で、島に下船せず乗り続ける二等「ワンデー

ルージングチケット」も6000円台で販売されており、船旅好きに好評だ。

旅客スペースは2層のみだが、横揺れ防止装置としてフィンスタビライザーなどが装備されているため、485トンの小型船ながら揺れが最小限に抑えられ快適である。

客室はカーペット敷きの二等と特二等、シャワー・トイレ付個室の一等の3グレードがあり、左舷には広い窓から島々を眺められるバリアフリーの多目的室もあるが、レストランはなく自動販売機のみのため、長時間の乗船には弁当の持参をお勧めする。

寄港する島々は、平地が少ない利島、平坦で小さな式根島、真っ白な長い海岸線が魅力的な新島、天上山の白い山肌が美しい神津島と個性豊かであるが、各島の停泊時間は10分程度で一時上陸はできず、悪天候時には島をスキップする条件付き運航となる場合もあるので注意が必要だ。

下田港から伊豆急下田駅までは徒歩20分ほどのため、航海を終えたその日のうちに東京へ戻ることができる。東京から直接島へ向かうのもいいが、こうした魅力あるローカル航路の旅もおすすめしたい。

1957年東京生まれ。船専門のイラストレーター・画家。パッケージデザインや出版物の装幀などを数多く手掛ける。著書に「船体解剖図」、「船体解剖図 NEO」（イカロス出版）。

MINIMIZE PSC RISK. MAXIMIZE CONFIDENCE.

As a globally trusted flag, we deliver responsive support, pragmatic solutions, and transparent processes.



GLOBAL TRUST

A globally trusted flag built on transparent processes and proven standards



24/7 RESPONSIVE SUPPORT

Responsive support to keep your operations moving without disruption



OPERATIONAL RELIABILITY

Reliable, compliant operations delivered with consistency and confidence



Scan QR Code to Connect with Your Local Regional Office

竣工船フラッシュ

最近の竣工船はウェブサイトでもご覧いただけます。 <https://www.jseinc.org>



RURI PLANET (リベリア籍)

- 船主：ERICA NAVIGATION S.A.
- ばら積運搬船
- 111,238 総トン
- 210,079 重量トン
- 主機関：三井-Everllence B&W 7S60ME-C10.5-GI-HPSCR
- 全長299.99m、幅50.0m、深さ25.0m
- 船級：NK
- 今治造船(株)西条工場、4月28日竣工

NORD PRIME (パナマ籍)

- 船主：SOUTHERN ROUTE MARITIME S.A.
- ばら積運搬船
- 93,691 総トン
- 主機関：MAN-B&W 7S60ME-C10.6-HPSCR
- 全長292.0m、幅45.00m、深さ24.55m、喫水18.234m
- 船級：NK
- ジャパン マリンユナイテッド(株)有明事業所、5月19日竣工



FORESIGHT DIVA (リベリア籍)

- 船主：河菜海運株式会社
- ばら積運搬船
- 48,127 総トン
- 87,461 重量トン
- 主機関：三井-Everllence B&W 5S60ME-C10.5-EGRBP
- 全長228.41m、幅36.50m、深さ20.39m
- 船級：NK
- (株)大島造船所 本社工場、5月21日竣工

NISSOS DELOS (マーシャル諸島籍)

- 船主：NIRIIS MARINE HOLDINGS S.A.
- 原油タンカー
- 83,500 総トン
- 158,958 重量トン
- 主機関：三井-MAN B&W 7S60ME-C10.6-EGRBP
- 全長274.30m、幅48.00m、深さ23.15m
- 速力：14.5ノット
- 船級：LRS
- ジャパン マリンユナイテッド(株)津事業所、4月3日竣工



物流業界の羅針盤

技術と信頼の NKKK

Since 1913 for 100 years and Beyond

今までも、これからも
“信頼のブランドNKKK”であり続けます。

NKKKは2026年、創立113年を迎えました。
これもひとえにみなさまのご理解とご支援の賜物であり、
心より感謝申し上げます。

一般社団法人
日本海事検定協会

NKKK

日本海事検定キューエイ株式会社
日本海事検定グローバルサポート株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目9番7号
TEL 03-3552-1241 FAX 03-3552-1260
<https://www.nkkk.or.jp>

<https://www.nkkkqa.co.jp>
<https://www.nkkkgs.co.jp>

一隻の船舶、無数の使命



- 不定期船
- 在来船
- 国際複合一貫輸送
- 船舶代理店
- 中古船売買
- 予備品調達



天洋汽船株式会社
TENYO KISEN CO., LTD.

〒101-0047 東京都千代田区内神田3丁目22番7号JS神田多一ビル8階
TEL: 03-3526-4228
E-mail: tenyokisen@tenyokisen.co.jp
www.tenyokisen.co.jp



YANMAR

We Find the Way

運ぶこと。それは、新しい未来をつくろうとするお客様の思いを実現すること。
だから、どんなときでも、ただ一つの最善の方法を見つけ出し、必ずやり遂げる。
このような、私たちの強い意志と自信を、この企業メッセージに込めています。



北海道 ⇄ 東京

日本縦断

東京 ⇄ 九州



～日本を1つに結ぶ日本通運の内航定期船～



日本通運株式会社



輝く未来へ、挑み、動かす。

ヤンマーがつくるのは、時代の先を拓く推進力。

脱炭素社会、そして、安全な航海へのさまざまな課題を解決するために、

常識を超えて挑む情熱と信念が

先進の技術と新しいソリューションを生み出しています。

ヤンマーパワーソリューション株式会社 営業本部

〒660-8585 尼崎市長洲東通1-1-1 TEL: 06-6489-8069 [営業所] 東京 / 大阪 / 広島 / 高松 / 福岡



国民の祝日「海の日」



RORO船「神珠丸」

栗林商船株式会社

● 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 (新大手町ビル3F) TEL 03-5203-7981 ● 釧路支社、苫小牧支社、室蘭支店、仙台営業所

国民の祝日「海の日」

フネ×ヒトのチカラで、 日本の未来を明るくデザインする

RORO船「まりも」

近海郵船株式会社

本社 〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9 野村不動産芝大門ビル7階
TEL. 03(5405)8300 FAX. 03(5405)8289

東京営業部	TEL.03(5405)8290	大阪支店	TEL.06(6223)3666
仙台営業所	TEL.022(786)1890	常陸那珂営業所	TEL.029(264)2700
敦賀営業所	TEL.0770(20)4560	沖縄事務所	TEL.098(917)5480
福岡営業所	TEL.092(710)4401	近海郵船北海道(代理店)	TEL.0144(52)5730



Excellence Reliability Cayman

卓越した品質
揺るぎない信頼
ケイマン船籍登録



- Global Recognition
- Regulatory Compliance
- Worldwide Service
- Technical Expertise
- Trusted Partnership
- Port State Control Excellence

- Paris MOU White List
- Tokyo MOU White List
- USCG QUALSHIP 21
- Global Service Network

cishipping.com

Serving the maritime industry worldwide

TOUCH THE NEXT STANDARD

www.nautilight.jp



NAUTILIGHT NAVI は LED 船灯の新しいブランドです。
船舶がより高機能化し、安全への意識がより高まる中、法定船用品も時代に沿ったかたちによって変わっていく必要があります。
次世代標準を見据え、革新的なコンセプトのもとに開発された、NLLシリーズが新たな風を吹き込みます。
2016年5月の発売以来、2000隻を超える船舶に納入させていただきました。

伊吹工業株式会社 〒535-0031 大阪府大阪市旭区高殿 1-7-28 Tel : 06-6922-5115 E-mail : ibukim@ibukikogyo.co.jp
www.nautilight.jp





川崎汽船 自動車船へ鉄道車両の積み込みを公開 High & Heavy貨物の輸送を強化へ

川崎汽船は6月13日、神戸港・六甲アイランドでエジプト・カイロ向け鉄道車両の自動車船への積み込み作業をメディア向けに公開した。

車両の輸送に使用するのは2025年2月に就航した6900台積みLNG(液化天然ガス)燃料自動車船「OCEANUS HIGHWAY(オーケアノス・ハイウェイ)」。長さ約21m、高さ約5m、幅約3mの車両をロールトレーラーに載せて専用車両でデッキへ搬入し、計16両を積み込んだ。

「OCEANUS HIGHWAY」は最新鋭の自動車船でメインデッキの高さを調整できるほか、デッキとスタンランプの強度を従来船比で1.5倍以上に高めたことで、High & Heavy(大型・重量)貨物の安全な輸送に対応する。

今回輸送する車両は、カイロ地下鉄4号線第1期向けに納入される。路線はカイロ中心部から西側へ延びる約19kmで、2028年に部分開業、2030年3月に全線完成を予定する。三菱商事がエジプト・トンネル建設公団から地下鉄車両184両の納入契約を受注し、近畿車輛が車両を製造した。

川崎汽船は自動車船事業の成長戦略の一環とし

て、鉄道車両や油井管、建設機械、コンベヤベルトといったHigh & Heavy貨物の輸送拡大を進めている。これまで主に自動車メーカーのサプライチェーンを支える輸送を手掛けてきたが、今後は取扱貨物の幅を広げて多様な産業の荷主に物流サービスを提供していく考えだ。

川崎汽船によると、High & Heavy貨物はコンテナ船やLOLO(Lift On/Lift Off)船でも輸送できるが、自動車船は輸送品質の面で優位性がある。建設機械のような自走貨物はそのまま船内へ積み込めるため、貨物への負荷を抑えられるほか、自走しない貨物もロールトレーラーに載せて輸送が可能という。

同社は需要拡大を見据えてHigh & Heavy貨物の積載に適した新造船の導入を進める。併せて荷役体制の強化にも取り組み、ロールトレーラーやけん引機器を自社保有し、荷役機器の開発にも力を入れる。自動車船営業グループROROマーケティングチームの田中大輔チーム長は「High & Heavyのマーケットにはまだ大きな成長余地がある。今後も多くのお客様に選ばれるキャリアを目指す」と語る。



- 1 地下鉄車両を搬入する様子
- 2 デッキ内で車両が並ぶ
- 3 タグマスター(けん引車)で運ばれる車両
- 4 車両はロールトレーラー上で固定される

大切なあなたの笑顔をのせて その先の未来へ運ぶ

地球に優しい「船」という輸送手段。
わたしたちは、モーダルシフトの推進に取り組んでいます。
大切なあの方の笑顔を見たいから、ずっと笑顔でいてほしいから。
運び続けていきます、その先の未来へ




K 川崎近海汽船株式会社
KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号 Tel. 03-3592-5800 (代表) <https://www.kawakin.co.jp/>

内航コンテナ輸送のパイオニア

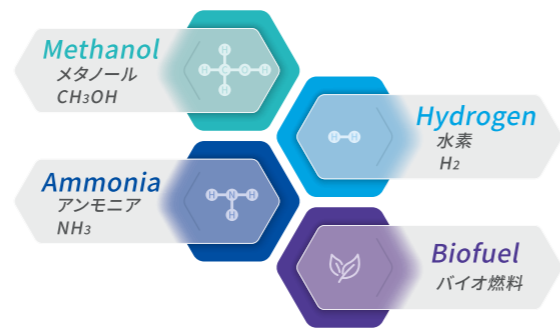


 井本商運株式会社

代表取締役社長 井本 隆之

〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地 神戸朝日ビルディング
TEL (078) 322-1600 FAX (078) 322-1620 <https://www.imotoline.co.jp>

ダイハツインフィニアースは
地球環境へ
新たな可能性を無限に与え
技術革新を追求し
新たなエネルギーと共に進む



進む、をつくる。



DAIHATSU
InfiniEarth

ダイハツインフィニアース株式会社

〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番30号 TEL (06) 6454-2393 FAX (06) 6454-2686

東京支社 TEL (03) 3279-0821 / 仙台支店 TEL (022) 227-1674 / 名古屋支店 TEL (052) 561-1311
四国支店 TEL (0898) 32-6213 / 九州支店 TEL (092) 629-0731 / 守山事業所 TEL (077) 583-2551



www.d-infi.com

おかげさまで50周年



価値あるサービスを世界へ

IMCは、世界中のネットワークを活かし、
お客さまへソリューションを提案します。

株式会社 IMC

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目13番23号

Tel. 03-6722-6891

<https://www.jmuc.co.jp/imc/>



国内拠点

東京 名古屋 神戸 相生 広島

海外拠点

オランダ トルコ シンガポール ベトナム 中国

国民の祝日「海の日」



本社工場全景

一隻入魂！

内航小型船(499GT)から外航船の建造を承ります。



佐々木造船株式会社

本 社 工 場 〒725-0401 広島県豊田郡大崎上島町木江65-1
 TEL 0846 (62) 0350 (代) FAX 0846 (62) 0713
 設 計 部 TEL 0846 (62) 0273 (代) FAX 0846 (62) 0714
 資 材 部 TEL 0846 (62) 1057 (代) FAX 0846 (62) 0712
 宇 浜 工 場 〒725-0401 広島県豊田郡大崎上島町木江5102-2
 TEL 0846 (62) 1215 (代)

[HP] <http://www.sasakizosen.com/> [E-mail] info@sasakizosen.com

国民の祝日「海の日」

NS ユナイテッド海運株式会社



世界を つなぐ 使命



なみを超えろ。



檜垣造船株式会社



代表取締役社長 檜垣 宏彰

本 社 〒799-2111 愛媛県今治市小浦町1丁目4番25号
 TEL 0898 (41) 9147
 東京事務所 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目2番10号
 TEL 03 (3553) 8391
<https://www.higaki.co.jp/>



国民の祝日「海の日」

「エネルギー」の次へ、「運ぶ」の先へ、環境の未来へ、
先んじて挑み、社会を支えるエネルギーであり続ける。

UYENO



上野トランステック株式会社

本 社
〒231-0023 横浜市中区山下町70-3
Tel. 045-671-7535 Fax. 045-671-1137

東京本社
〒100-6007 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング7階
Tel. 03-6747-3173 Fax. 03-6748-7005

<https://www.uyeno-group.co.jp/>

国民の祝日「海の日」

変革の航路の先に、
持続可能な未来を。

飯野海運株式会社
Transformation for a Sustainable Future



BE AN EXPLORER.
冒険しよう。



BEMAC 株式会社



TOKO LINE
東興海運株式会社
TOKO KAIUN KAISHA, LTD.

□本社
HEAD OFFICE 〒650-0037 兵庫県神戸市中央区明石町32 明海ビル TEL 078-331-1511
MEIKAI BLDG., 32, AKASHIMACHI, CHUO-KU, KOBE 650-0037 JAPAN

□東京事務所
TOKYO OFFICE 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル TEL 03-3281-6661
TOKO BLDG., 1-8-10, NIHONBASHI-MUROMACHI, CHUO-KU, TOKYO 103-0022 JAPAN

<https://www.tokoline.co.jp>

The Name to Trust

国民の祝日「海の日」

ファイナルMラインJ
ファイナルMラインJサザンクロス

NAROC
ファイナル
シリーズ

信頼を未来につなぐ
NAROC
ナロック株式会社
NAROC ROPE TECH.

<https://www.naroc.co.jp/>

classNK HSE I, ISO45001, ISO9001, ISO14001
大阪本社・東京支店・九州支店・紀の川工場

電動機、ディーゼルエンジンの保守点検・修理からITシステム構築まで
船舶のトータルエンジニアリング・カンパニー

TOWA
TECHNO
since 1947

電気設備
メンテナンス
Electric motor rewinding,
panel repair & fabrication

エンジン
メンテナンス
Prime mover diesel service & repair

船舶IT
システム
IT System

造船・船舶メンテナンスにおいて
世界が採用する“本物”の
レーザークリーニングシステム
を導入しています。
HIT THE SPOT WITH LIGHT
cleanLASER JAPAN

TOWA TECHNO

078-990-3335 towa-office@towatechno.com towatechno.com

難燃性と冷感機能を備えたインナーウェアの開発で 繊維メーカーとタッグ

今治造船 ほか

今治造船は繊維メーカーなどと共同して安全性と快適性を両立したインナーウェアの開発に取り組む。火気作業と酷暑環境が同時に存在する夏季の造船現場で、作業員がより安全に働ける環境の整備を目指す。

今治造船は4月21日、繊維大手の倉敷紡績、衣料品の企画・販売を手掛けるリベルタ、ユニフォームデザインを担当するハイドサインの3社と共同開発契約を締結した。これまで両立が難しかった「難燃性」と「酷暑対策」を兼ね備えたインナーウェアの実用化を目指す。

素材には、倉敷紡績の難燃素材「BREVANO(ブレバノ)」をベースに開発したインナーウェア向けニット素材を採用する。難燃性だけでなく通気性と速乾性を確保する。さらにリベルタの冷感機能素材「FREEZETECH(フリーズテック)」のプリント技術を活用し、同素材を肌面に施すことで冷感を生む。

衣装設計は今治造船の作業服デザインを手掛けるハイドサインが担当した。造船現場での作業姿勢や動作を踏まえ、動きやすさを重視した。

夏の作業環境の厳しさが一段と増す

新たなインナーウェアの開発背景には造船現場ならではの過酷な労働環境の存在がある。溶接時に発生する火花の飛散に加え、近年は猛暑の影響で夏の作業環境が一段と厳しさを増しており、「火気」と「暑熱」という2つのリスクの中で、安全性と快適性をいかに両立させるかが課題となって

いた。

今治造船は解決に向けた取り組みの一環として2025年4月、約30年ぶりに作業服を刷新した。一方でインナーウェアについては、速乾性に優れたポリエステル素材が一般的だが、火気環境下では熱による熔融リスクが残るほか、熔融しづらい綿素材でも着火した場合に燃え広がる懸念があった。難燃素材は防護性に優れる一方、通気性や放熱性に課題があり暑熱環境には適さない。そこで、難燃性と快適性を兼ね備えたインナーウェアの実現に向けて4社が協業するに至った。

6月11日に4社は共同で記者発表を開き、今治造船の檜垣幸人社長が開発経緯を説明した。檜垣社長は「造船業は多くの工程と高度な技能に支えられた総合ものづくり産業であり、その最前線に立つのは現場で日々作業に従事する人たちだ。持続的な成長のためには設備や技術への投資に加え、人への投資も重要だ」と述べ、作業環境改善の意義を強調した。

今治造船では今夏から社員約500人が実際にウェアを着用し、現場での使用感や改善点を検証する。得られたフィードバックを基に改良を重ね、2027年からの本格導入を目指す。その上で、リベルタは一般販売を予定している。

檜垣社長は「この成果を造船業界へ還元し、現場で働く方々の安全性と快適性の向上に少しでも寄与したい。さらに他業界にも応用できれば、日本のものづくり全体の現場環境改善にも貢献できる」と述べた。



共同で記者発表をした今治造船の檜垣社長(左から2人目)ら



今回新たに開発したインナーウェア(手前)

デジタルツインはどのような技術？ — 海事産業での活用方法を探る —

現実空間を仮想空間上に再現する「デジタルツイン」への注目が高まっている。製造業や都市開発をはじめ幅広い分野で導入が進み、海事産業でも活用の可能性が広がる。日本海事協会(NK)への取材を基に、その仕組みや事例、今後の展望を整理する。

仮想空間に現実世界の「双子」を創出

デジタルツインとは現実世界で収集したデータを基に、コンピューター上に設備や環境を再現する技術を言う。現実と対になる「双子(ツイン)」を仮想空間上に構築することが名称の由来だ。リアルタイムデータを継続的に反映することで、現場の状況を仮想空間上で可視化し、変化を即座に把握できる。

仮想空間に「双子」を構築するには、対象の挙動を再現できる流体シミュレーションなどの物理モデルが必要となる。この物理モデルは目的や求める成果に応じて十分な精度を備えていればよく、簡易的なモデルであっても構わない。そこに現実

で取得した計測データを流し込み、現実とモデルを同期させ続けることで、仮想空間の「双子」にも現実の状態をタイムリーに映し出すという仕組みだ。

デジタルツインの価値は単に現状を「見える化」するだけではない。「今現実で何が起きているのか」、「このまま進むと将来どうなるのか」、「条件を変えたらどうなるのか」といったことを仮想空間で確認し、その結果を現実世界のさまざまな判断に役立てることができる。

例えば、製造業ではある製品を最終形として完成させる際、従来は試作品を作り、改良を重ねる工程が不可欠だった。一方でデジタルツイン技術を使うと試作を仮想空間上で何度でも繰り返すことができる。品質の向上と開発期間の短縮が期待できる。あるいは完成した製品や製造ラインでトラブルが発生した場合もリアルタイムでデータを収集・分析することが可能だ。

都市開発や行政分野でもデジタルツインは導入されている。災害発生を想定したシミュレーションを、現実では困難な条件下でも繰り返し実行できる点が特長だ。大地震などの自然災害を想定し



航空機エンジンの故障予兆診断はデジタルツインの代表的な成功事例として知られる

©Allahfoto/Shutterstock.com

た検証を通じて、事前の対策を講じやすくする。結果として被害リスクの軽減につながる。

デジタルツイン技術は、現実世界では試せないこと、もしくはコストやリスクの観点から試しづらいことを、仮想上の「双子」の側で先回りして検証できることが大きなメリットだ。

航空機エンジンの診断・天気予報で活用

こういったところで活用されているのか。デジタルツインの成功例としてよく挙げられるのが、航空機のジェットエンジンの故障予兆診断だ。

航空機のエンジンには高い安全性が求められるため、慎重な維持管理が行われている。そこで、エンジンに取り付けられた多数のセンサーから取得したデータを仮想モデルに継続的に反映し、動きや劣化の進行を仮想空間上で再現する。その結果、例えば1カ月後にどのような状態になるかが推定できるようになる。異常の兆候が見られた場合には早期に検知し、重大な故障に至る前に整備を行うといった運用が実際に行われている。

同様に工場やプラント分野でも普及が進んでいる。設備の予兆診断や運転の最適化・効率化など幅広い用途で利用されている。設備の劣化を事前に察知し、計画的な保全につなげるほか、操業条件を仮想空間で試行することで生産効率の向上を図るといった使い方が一般的だ。

そして、デジタルツインは私たちの生活にも浸透しつつある。その代表例が天気予報であり、そ

の結果として近年ではスマートフォンで分単位の降雨予報が確認できるようになっている。

天気予報では一般的に、大気の動きを再現したシミュレーションモデル(仮想上の地球)が使われる。スーパーコンピューターで世界中の大気の状態を計算し、将来の天候を予測する。ただし、予測は観測時点のデータを基に計算するため、時間の経過とともに現実とのずれが生じ、先の子報ほど不確実性が増していく。

このずれを補正するためにデジタルツイン技術が用いられている。世界各地の観測機器から得られるデータをリアルタイムで取り込み、モデルを継続的に更新することで、常に現実に近い大気の状態を再現する。その上で将来の天候を予測している。

因果モデルの構築とコストが課題 AIとは役割や考え方が異なる

もちろん課題もある。

デジタルツインを機能させるには、対象となる設備や現象に関するデータと、その入力に対してどのような結果が生じるのかを示す精度の高い因果モデルが必要だ。なぜなら仮想空間上のモデルが不正確であれば、どれだけ正確なデータを取り込んでも誤った結果を導くことになるからだ。しかし、現実世界の設備や現象は複雑で、そう簡単にはモデルとしてつくり上げることができない。そのため信頼性の高いモデルを構築すること自体が大きな課題の一つとなっている。



現実と対になる「双子」を仮想空間上に構築するデジタルツイン技術

©Jackie Niam/Shutterstock.com

自動運航とも親和性が高いデジタルツイン

近年発展が進む自動運航も実はデジタルツインと密接な関係にある。

自動運航はシステムが舵の操作や出力制御を自動で行い、他船との避航を含めて航行を制御する。コンピューターに適切に判断させるためには、自船の位置や状態、周囲の船舶の動向といった情報を正確に把握しなければならない。そのため現実世界の状況を仮想空間上に再現させて、その情報を基にシステムに判断させる。こうした点でデジタルツインの考え方と深く結び付いている。

また、リモートオペレーションにも有効だ。な

ぜなら仮想空間上の情報は遠隔地でも容易に共有できるからだ。リモートオペレーションでは陸上の拠点から船舶の状態を監視・支援する。監視対象は主機関をはじめとする各種機器や設備の状態にも及ぶ。船舶の運航状況や機器の状態をデジタル空間上で把握し、その情報を陸上与共有することで、運航支援や保守管理が可能となる。

このように現実世界をデジタル空間上に再現し、その情報を共有できるデジタルツインは、自動運航やリモートオペレーションを支える技術の一つとしても期待されている。

NKを中心に船社や造船所が連携「共有型デジタルツイン構想」が進む

日本の海事産業でもデジタルツイン技術の活用促進に向けた取り組みが着実に進んでいる。その代表例が「共有型デジタルツイン構想」だ。NKが中心となり国内の大手船会社や造船所、エンジニアリング会社、商社など計14社が参画して進めている。

デジタルツインを実現するためには3Dモデルや設計データが必要となる。船舶の場合、造船所が保有しているケースが多い。ただし現状では、これらのデータは主に設計・建造目的だけに限られている。なぜなら、設計データがその価値とともに機密性が高く、外部への流出は競争力の衰退に直結すると認識されているからだ。

こうした状況を踏まえ、造船所が保有する3D設計データを運航後にも用いようというのがこの構想の狙いだ。中立的な機関であるNKがプラットフォームの運営やルール整備を担い、信頼性を確保する。そして、運航時のシミュレーションやデジタルツイン技術に応用する。航海中の船舶から送信される運航データについては、既にNKの関連会社であるShipDCがIoS-OP (Internet of Ships Open Platform)として共有基盤を運営しており、設計データとの連携によるさらなる活用も期待できる。

この仕組みが実現すれば、船会社は運航最適化

や荷物の積付最適化、省エネ装置の性能検証などのサービスを言わば「集合知」として利用できるようになる。

一方で造船所にとっても、従来は建造目的だけに限られていたデータが新たな価値を持ち、さらなる収益機会につなげることができよう。日本国内に個別に格納されているデータが一定の枠組みの中で循環し、関係者全体にメリットが広がる制度と言えるだろう。

NKによれば、「造船所や設計会社が保有する設計データを企業横断で共有する試みは、世界的に見ても例がない」という。また、この取り組みの出発点として、NKは6月15日に「ClassNK Design Data Marketplace」をウェブ上で公開した。コンテナ船やばら積み船、RORO船など46件の船舶モデルを公開しており、荷役の積付支援や自動化システム、船舶設計、風力推進船の技術支援など11件のサービスも掲載する。利用者はこれらのモデルやサービスを検索・比較し、利用を申し込むことができる。この構想が進めば設計と運航の垣根を超えたデータ活用が現実味を帯び、日本の海事産業も競争力強化につながる可能性がある。

そして、現実世界の「双子」をデジタル空間上に再現するデジタルツイン技術は造船業の効率的化だけでなく自動運航技術(囲み参照)を支える基盤としても注目される。海事産業のデジタル化が進む中、その役割は今後さらに大きくなりそうだ。■



©masy / PIXTA

特集

多彩に進化する日本の船旅 —クルーズからフェリーまで—

日本政府は2030年までに日本人クルーズ人口を100万人とする目標を掲げている。国内では2024年に「MITSUI OCEAN FUJI」が、25年に「飛鳥Ⅲ」がデビューしたほか、26年には「MITSUI OCEAN SAKURA」、28年にはディズニークルーズの新造船も就航を予定しており、クルーズ市場の一層の盛り上がり期待される。

また、より身近な船旅の入り口としてフェリーの魅力発信・利用促進も重要なテーマとなっている。国内では単なる移動手段ではなく、豪華な客室やレストラン、大浴場などを備えたホテルさな

がらのフェリーが運航し、人気を博している。

今回の特集は日本の海運会社が提供する船旅の最新動向を取り上げる。クルーズ事業については郵船クルーズと商船三井クルーズに、フェリー事業については新日本海フェリーと太平洋フェリーにインタビューし、現在注力している取り組みや船旅文化の醸成に向けたポイントなどをお話いただいた。

加えて、船舶専門のイラストレーターである中村辰美氏にも取材し、日本全国を巡るおすすめフェリー航路とその魅力を語ってもらった。

メールインタビュー

クルーズは特別な贅沢ではなく
日常の延長にある旅の選択肢

日本郵船グループの郵船クルーズでは2025年7月に34年振りの新造客船「飛鳥Ⅲ」が就航し、現在は「飛鳥Ⅱ」と2隻体制で事業を展開している。また、オリエンタルランドが28年度に日本で就航を計画しているディズニークルーズに関しても業務提携に向けた基本合意を締結するなど、日本におけるクルーズ市場の成長のけん引役としてプレゼンスを高めている。（回答日：5月14日）

郵船クルーズ株式会社
企画マーケティング部

部長 **岡田 ひろみ氏**



「飛鳥Ⅲ」は全長230m、全幅29.8m、総トン数は5万2265GT、船籍港は横浜（提供：郵船クルーズ）

日本の文化と美意識を宿す「飛鳥Ⅲ」
乗客数を抑え快適性の向上を追求

——新造客船「飛鳥Ⅲ」のスペックやクルーズ商品の特徴、ターゲット層などについて教えてください。

岡田 「飛鳥Ⅲ」は2025年7月に就航した最新の客船です。客室は全室バルコニー付きで快適性を追求しているほか、日本の四季・文化を深く味わう多彩なクルーズ商品が特長です。

客室に関しては351室すべてを海側バルコニー付きとし、プライベート性と眺望を両立しています。2室限定の最上級客室であるロイヤルペントハウスから、一人旅のお客様向けのソロバルコニーまで幅広い客室タイプを用意しました。全室バスタブ付きで、ミニシンクも完備しています。

また、船内は日本の文化と美意識を反映した空間となっています。食事に関しては割烹料理の「海彦」やフレンチレストランの「ノブレス」など多彩なレストランを用意しました。船首には露天風呂

を完備した展望大浴場を備えています。さらに、船内の各所に日本を代表する様々なアート作品を展示しており、“日本らしい上質さ”を追求しています。

ウェルネスやエンターテインメントの充実にも力を入れています。プール、フィットネス、ゴルフシミュレーター、そのほか知的好奇心を満たせる講演など、長期航海でも飽きないプログラムを数多く提供しています。

ターゲット層としては、上質な旅を求める50～70代のアクティブシニア層を想定しています。長期休暇を取りやすく、文化・美食・寄港地観光をゆったりと楽しみたい層です。

さらに、クルーズ初心者夫婦旅行などにも間口を広げていきたいと考えています。「飛鳥Ⅲ」では2～3泊のショートクルーズも多く用意しており、初めてでも参加しやすい構成を意識しています。

そして、日本の文化、アートや四季を楽しみたいという国内外の旅行者もターゲットです。

——今年5月12日出発のクルーズからサービスを改定しましたが、その概要とねらいについてもお聞かせください。

岡田 乗客数を740人から680人へ削減し、さらなる快適性の向上を図っています。客室数も381室から351室へと減らしました。パーソナルスペースを拡大することで、船内でのゆとり空間を演出することがねらいです。

合わせて、乗組員数を約470人から約490人へと増員しました。サービス品質を強化し、一人ひとりに目が行き届くよう、より手厚いホスピタリティを提供する体制を整備しています。

加えて、レストランや寄港地ツアーの予約制度も見直しました。利便性の向上に向けて、客室クラスに応じた予約枠の最適化や事前予約システムの改善を実施しています。

——「飛鳥Ⅲ」の就航からこれまでの反響や手応えについてはいかがですか。

岡田 「日本のクルーズの新しい姿を見た」という声を多くいただいています。ホテルのような落ち

着いた船内空間、丁寧なサービス、そして四季や文化を感じられる体験が、乗客の皆さまに確かな満足届けていると実感しています。

特に評価が高いのは、落ち着いた雰囲気と多彩なアート、また、コースからアラカルトまで個性豊かなレストランでの食事などです。運航を重ねるほど、船と乗組員の対応力が高まっているという手応えがあります。

新規顧客向けにショートクルーズを拡充

——コロナ禍以降、クルーズの利用者数はどのように推移していますか。

岡田 コロナ禍では寄港可能な港が限られ、3～4泊のショートクルーズが増えたこともあり、アクティブに船旅を楽しむ方が増えました。移動型や地方発着、乗下船地が異なるクルーズなども利用されており、クルーズ前後の旅と組み合わせて楽しむニーズが拡大しています。合わせて、国内旅行に対する関心の高まりから、国内クルーズ需要も増えています。

お客様の主な年齢層は50～70代で、ご夫婦や

インタビュー

寄港地と連携して振興を図り クルーズ・地域ともに発展していく

商船三井グループの商船三井クルーズは新たなクルーズブランドを立ち上げ、24年にラグジュアリークルーズ船「MITSUI OCEAN FUJI (三井オーシャンフジ)」を投入し、さらに今年9月には「MITSUI OCEAN SAKURA (三井オーシャンサクラ)」の就航を予定している。2隻体制で短・中・長期のクルーズ商品を展開し、現役世代にもリーチの間口を広げている。(取材日：6月2日)



商船三井クルーズ株式会社

執行役員 **中嶋 一馬氏**

船内の通信環境を整え現役世代の獲得へ 日本籍船で国内ショートクルーズも充実

——新たな客船「三井オーシャンフジ」と「三井オーシャンサクラ」の特長や違いについて教えてください。

中嶋 「三井オーシャンフジ」は2024年12月1日に横浜港で就航しました。今年9月にデビュー予定の「三井オーシャンサクラ」は、前身の「Seabourn Sojourn (シーボーン・ソジャーン)」からまさに今生まれ変わろうとしているところです。

クルーズ船は交通の機能、宿泊の機能、食事の機能、エンターテインメントの機能など船内生活を楽しんでいただくための娯楽の要素を複合的に備えています。その上で我々は「MITSUI OCEAN CRUISES (三井オーシアンクルーズ)」というブランドを立ち上げ、ブランドコンセプトとして「日本の美しい船旅」を掲げています。寄港地などにおいて地域と連携し、地域の発展に貢献し

ながらクルーズ業界全体を強化することに重点を置いています。船旅を通じて美しい日本の魅力を届けたいと思います。

2隻の違いを挙げると、「三井オーシャンフジ」は現状では外国籍船です。カボタージュ規制により1クルーズで少なくとも1カ所以上海外に寄港する必要があり、クルーズの期間は1週間前後のミドルクルーズが中心となり、国内と海外を一度に巡ることができます。

「三井オーシャンサクラ」は改装を経て日本籍船としてデビューします。海外へ航くこともありますが、国内で1～3泊のショートクルーズが可能です。

また、船内施設の違いとして「三井オーシャンフジ」にはパソコン作業に最適なビジネスセンターを設置しました。仕事だけでなく、例えば、遠隔地の家族とのオンライン通話などにも便利です。一方、「三井オーシャンサクラ」には服を着たまま気軽に利用できる足湯や、本格的な寿司バーを設ける予定です。

船内はいずれもインターナショナルな雰囲気が漂います。同時に、今年5月に引退したクルーズ



「三井オーシャンフジ」は全客室がスイートルーム(提供：商船三井クルーズ)

船「にっぽん丸」から続く「おもてなしの心」も引き継いでいます。欧米のラグジュアリークルーズの品質と日本の伝統が融合した船となっていることが特長です。

乗組員には日本人の他、多国籍のスタッフがおり、船内の公用語は日本語です。日本円も使えます。その点、初めて海外旅行をする方にも安心して楽しんでいただけたらと思います。特に「三井オーシャンサクラ」はショートクルーズが多い分、初めてのクルーズとしてチャレンジしやすい点も大きな特長です。

それから、「三井オーシャンフジ」と「三井オーシャンサクラ」はともに全長が200m以下とコンパクトなサイズです。ゆえに「洋上の我が家」のような親しみを感じやすいと思っています。また、コンパクトだからこそ日本の様々な離島に寄港することができます。その機動性もまた大きな魅力だと思います。

——ターゲット層についてはいかがですか。

中嶋 一般的な傾向に変わらず、当社も現在の主要なお客様は60歳以上のアクティブシニア層です。一番のターゲットではありますが、今後はさらに現役世代にも間口を広げていきたいと考えています。

国土交通省では2030年に日本人のクルーズ人

口を100万人とする高い目標を掲げました。その目標に貢献する意味でも、若い世代が乗りやすい船を目指していく必要があると思っています。

具体策の1つとして、「三井オーシャンフジ」と「三井オーシャンサクラ」の船内には無料の無制限Wi-Fiサービスを用意しました。快適なワーケーション環境を提供することで、現役世代もクルーズに参加しやすくなるの見込んでいます。特にコロナ禍を経て働き方は変化してきています。クルーズでのワーケーションなども魅力的な選択肢になればと期待しています。

——9月には2隻が出揃いますが、あらためて新ブランド展開の意気込みをお聞かせください。

中嶋 ブランド化は当社にとって大きな変化であり、「三井オーシアンクルーズ」の認知度は着実に高まっています。残念ながら「にっぽん丸」は5月で引退しましたが、「三井オーシャンサクラ」のデビューが近付き、一層の手応えを感じているところです。

従来のクルーズは夏休みや年末年始といった長期休暇の旅行や、誕生日などの記念旅行が主でした。今後は現役世代の顧客を獲得し、より身近な旅行商品の選択肢の1つとしてクルーズが選ばれようとする時代を作っていきたいと思っています。

また、当社は日本国内だけでなく北米や台湾、

インタビュー

船旅の魅力を伝える努力が必要 “楽しさ”“自由さ”を体感してほしい

SHK ライングループの新日本海フェリーは、日本海側で舞鶴・敦賀・新潟・秋田と北海道の小樽・苫小牧東港を結ぶ長距離フェリー航路を運航している。2025・26年には新造船2隻を投入し、ニーズに応じた船内設備の最適化を通じてフェリーの付加価値向上を図る。また、多岐に亘る事業を手掛けるグループの強みを生かし、船旅に関する一連のサービスを一貫して提供する体制を構築している。
(取材日：5月26日)

新日本海フェリー株式会社
経営企画部

部長 **中山 晃一氏**



経て大部屋のニーズが減る一方、個室需要は増しており、当社の船ではグレードの高い部屋ほど人気があります。ステートの1種であるウィズベットのルームも非常に人気が高いため、従来船の2～3室から新造船では5室に増やしました。それでも予約が埋まるのが早く、需要の高さを実感しています。

内装にもこだわっています。「けやき」は舞鶴市の市木から名前を取っており、船内は「京都」や「歴史」をテーマに上品さや優雅さ、温かみのあるデザインを追求しています。「はまなす」は北海道の道花です。「北海道」や「自然」をコンセプトとし、活動的で自然が感じられる明るい内装に仕上がっています。

エンターテインメントの充実もポイントです。新造船のスクリーンルームでは、国内フェリーでは初となるプロジェクションマッピングを駆使したイマーシブ(没入型)コンテンツを提供しています。「けやき」ではスクリーンルームを「龍宮」と名付け、海の中の龍宮城に行くかのような非日常体験をお届けしています。「はまなす」でもイマーシブコンテンツを導入する予定で、現在コンテンツ

グレードの高い部屋ほど人気 長い乗船時間を飽きさせない工夫も

——新造船「けやき」「はまなす」の船内設備やサービスの特長などについて教えてください。

中山 新造船2隻は2004年に就航した先代の「はまなす」と「あかしあ」のリプレースとして、舞鶴—小樽航路に投入します。「けやき」は2025年11月に就航しており、「はまなす」は今年デビューする予定です。

新造船の最大の特徴は個室を大幅に拡充したこと。個室率を従来船の53%から85%まで高めました。客室はグレードの高い順にスイート、デラックス、ステート3種、ツーリスト3種があります。このうちステートには新たにシャワーブースとトイレを完備しました。ツーリストSも1人部屋です。ツーリストAはベッドルームで、対面式と上下式があります。

個室率を高めることで収容人数は減りますが、その分単価も上がっています。また、コロナ禍を

制作を進めています。

それから、船内の通信環境の整備にも取り組んでいます。従来船ではエントランスホールやレストランなど、一部のパブリックスペースに限ってWi-Fiサービス「フェリー Wi-Fi」を提供していましたが、電波が入らない洋上でデジタルデトックスができる点もフェリーの魅力の1つだと思いましたが、昨今、特に若い世代にとって、常にWi-Fiにつながる環境が必須となっていることも確かです。そこで「けやき」は客室からもフェリーWi-Fiを利用いただけるようカバーエリアを拡大しました。「はまなす」についても同様に通信環境を整えています。

当社のフェリー航路は航海時間が長く、夜に出港して翌日の夜に入港します。我々は、お客様に船内でいかに楽しく過ごしていただくか、いかに船旅の付加価値を高めるかにフォーカスして様々な工夫を重ねています。

——イマーシブコンテンツを導入したきっかけは何ですか。

中山 若手社員の提案です。スクリーンルーム自体は他の船にもあり、これまでは映画を上映していましたが、新しいものを取り入れるべく、社長が「面白いアイデアはないか」と呼び掛けたところ、旅客営業担当の女性社員からイマーシブコンテン

ツの案が上がりました。

我々は創業当初から、新しいことに挑戦し続ける「進取の気性」をモットーとしています。当社は1969年に設立され、翌70年に日本海側で初となる長距離フェリー航路を開設しました。さらにさかのぼると、1968年にグループ会社の阪九フェリーが長距離フェリーのパイオニアとなる神戸—小倉航路を開設しました。それまでフェリーは短い区間の渡し船でありましたが、車ごと船に乗せて長距離を走るといのは新しい発想でした。

当時から現在に至るまで、我々SHKライングループには何事も新しいことにチャレンジする風土が根付いています。

——コロナ禍前から現在まで乗船客数はどのように推移していますか。

中山 旅客や乗用車の輸送実績は2024年時点で19年の水準を上回りました。25年も24年比で微増しています。コロナ禍後、しばらくは海外旅行の需要が抑えられたことや、足元では為替の影響もあり、国内旅行にお金を掛ける流れが続いていると感じています。

また、以前は夏休みがフェリー需要のピークでしたが、近年は平準化が進んでいます。ゴールデンウィークや夏休みの連休に利用が増える点は変わりませんが、例えば、北海道のドライブ旅行が



新造船「けやき」は全長199.0m、総トン数1万4157トン、積載台数はトラック150台・乗用車30台(提供：新日本海フェリー)

インタビュー

カーフェリーが現役層の入り口に 快適な船旅の成功体験を届ける

太平洋フェリーは国内フェリー航路では最長の名古屋―仙台―苫小牧を結ぶ1330kmを運航している。運航船3隻の中でも特に「いしかり」と「きそ」はリゾートホテルのようなデザインで、アーティストによるラウンジショーも実施するなど優雅な船旅の創出に力を入れている。近年はデータ活用を本格化し、分析に基づくサービスの改善やより効果的な情報発信に取り組んでいるという。

(取材日：6月8日)

太平洋フェリー株式会社
執行役員

旅客営業部長 **大塚 昌弘氏**



「いしかり」は全長199.9m、全幅27.0m、旅客定員777人、車両輸送能力は乗用車100台、トラック184台(提供：太平洋フェリー)



フェリーの表彰で33年連続1位 最大の強みは華やかなラウンジショー

——フェリー「いしかり」と「きそ」の特長について教えてください。

大塚 初めにご紹介したいのが、「いしかり」と「きそ」はクルーズ専門誌の読者投票による表彰「クルーズシップ・オブ・ザ・イヤー」のフェリー部門において、2隻合わせて通算33年連続で第1位を獲得しています。長年の連続受賞は熱心に支えてくださる根強いファンがいるからこそです。今後も皆様の心に残る快適な船旅を提供できるよう心掛けていきたいと思っております。

2隻はほぼ同型の姉妹船で、いずれも名古屋―苫小牧航路を運航しています。まず「いしかり」は2011年に就航した当社のフラッグシップです。「エーゲ海の輝き」をコンセプトに掲げ、青い海や空、白壁の家々をイメージした明るく開放的な船内デザインで優雅な船旅を演出します。

「きそ」は2005年に就航しました。船内デザイ

ンは「南太平洋のしらべ」をテーマとしています。南国リゾートホテルのような色鮮やかなインテリアと、随所に配置された植物や動物のオブジェがエキゾチックな雰囲気を醸し出します。

2隻に共通する最大の特長は、従来のフェリーと比べて2等客室などの大部屋を大幅に縮小し、個室を拡充した点です。個室のうち特等客室と1等客室を60部屋ずつ配置しています。いずれの個室もトイレを装備し、特等にはバスタブを、1等にはシャワーを設置してホテルの客室と同等の快適性を追求しています。

個室は個人客・団体客ともに需要が高く、オンシーズンになると特に北海道へ向かう航路はほぼ満席状態が続きます。

船内にはバイキング形式のレストランや軽食コーナー、大浴場、カラオケルーム、キッズコーナー、コインランドリーもあります。何より、当社船の最大の強みは長時間の航海を退屈せず優雅に過ごしていただくためのラウンジです。ほぼ毎晩、華やかなラウンジショーや映画上映会を実施しています。長距離フェリーの中でここまで大きなラウンジを備えているのは当社だけです。船の

付加価値を高める代表的な存在だと考えています。

船内の旅客エリアを大きくラウンジに当てているため、経済的観点では過剰に思われるかもしれませんが、我々は国内最長のフェリーであるがゆえに「船旅」という時間をいかに演出するかを最優先に考えています。これは当社が長年培ってきた企業文化だと思っております。

そのほか、船内にはスタッフを多く配置してホスピタリティの充実を図っています。

——コロナ禍前から現在まで、乗船者数はどのように推移していますか。

大塚 コロナ禍には旅客数が従前から6割減と大打撃を受けましたが、その後の回復は目覚ましく、2025年度にはコロナ禍前の乗船者数を上回りました。現在も力強く伸び続けています。

コロナ前後で大きく変わった点として、マイカー利用が激増し旅客サービス事業を力強くけん引しています。ここ数年は過去最高積載台数を毎年更新しており、旅客の7割がマイカー利用で、当社船の重要なコア層となっています。コロナ禍に他者との接触を避ける動きが広がり、プライベート空間と言えるマイカーでの移動が定着したと推測します。

また、旅客のうち2割は団体客が占めています。コロナ禍の団体客数はコロナ前比で7割減少しました。その後緩やかに回復し、今はコロナ前の8割ほどまで戻っています。利用状況を詳しく見る

と、部活動をはじめグループ形態での利用が落ち込んでいる一方、旅行会社による「日本一周ツアー」など複数のフェリーを乗り継ぐ夫婦ターゲットとした募集型企画が人気を集めています。

コロナ禍と現在の乗船者数を航路別に比較すると、名古屋―苫小牧航路は1.5倍に、名古屋―仙台航路は1.2倍になりました。仙台―苫小牧航路が当社のメイン航路ではありますが、コロナ禍を経て他2航路が伸びてきています。

——物流の2024年問題の影響はありますか。

大塚 当社は一次産業の畜産品から二次産業の工業製品、生活用品、食料品まで多品目を運んでいます。2024年問題では、特に陸続きの名古屋―仙台航路で貨物車両の乗船台数が大幅に伸び、2024年度には前年度比30%増加しました。25年度も同5%増と拡大が続いています。

しかし、現在は建築資材関連の輸送が減少しているほか、猛暑の影響で農産品も落ち込んでいます。さらに中東問題も加わり、海上輸送へのモデルシフトは全体的に低調に推移しています。

当社の課題を1つ挙げると、旅客の乗用車利用が非常に好調ゆえ、貨物輸送スペースを侵食し始めるという現象が起きています。ピーク時の貨物スペースとマイカースペースの容量管理・バランス最適化が足元の課題です。各担当者間で相談しながら全体最適を目指していきます。

インタビュー

景色や食を楽しみ船内を堪能する 船旅人口増へ鍵は若年層への訴求

PUNIP cruises (プニップクルーズ)の名で船舶専門イラストレーターとして活躍する中村辰美さんはこれまで国内外のフェリーやクルーズ船に数多く乗船してきた大の船好きだ。本誌では巻頭のエッセイ「旅と船」を連載している。今回は豊富な乗船経験をもとに日本全国を巡るおすすめフェリー4航路を紹介していただいた。あわせて、日本における船旅文化の現状や、それを広げていくための考え方やアイデアについても語ってもらった。(取材日：6月10日)



イラストレーター

PUNIP cruises **中村 辰美氏**

——まずは船で日本全国を旅するおすすめ航路を教えてください。

中村 東京を起点として日本を巡るおすすめフェリー4航路を考えてみました。

まずは東京から陸路で名古屋へ向かい、太平洋フェリーの仙台経由の名古屋—苫小牧航路に乗船します。続いて苫小牧から小樽に向かい新日本海フェリーの小樽—舞鶴航路を利用します。

舞鶴から大阪に移動して商船三井さんふらわあの大阪—別府航路に乗船します。最後は別府から新門司行き、東京九州フェリーの新門司—横須賀航路で東京へ戻るルートです。

——それぞれの航路の特徴や見どころを教えてください。

名古屋—苫小牧(太平洋フェリー) 豪華な客室やショーが魅力 姉妹船とのすれ違いは名物光景

中村 名古屋を午後7時に出港し、翌々日の午前

11時に苫小牧へ到着するこの航路は、約40時間の船旅を楽しめる日本でも屈指の長距離航路です。船は「いしかり」または「きそ」の2隻で運航しています。どちらも太平洋フェリーが豪華路線を追求していた時代の集大成とも言える船で、船内のデラックス感はあるフェリーの中でも群を抜いていると思います。

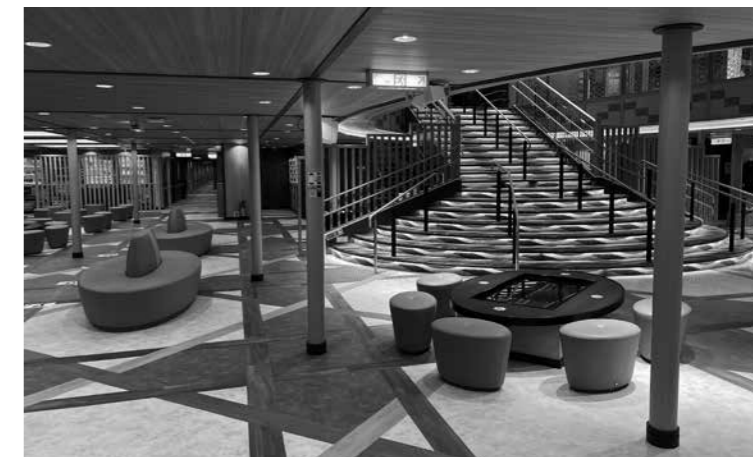
最上級客室のロイヤルスイートルームは約50㎡の広さがあり、日本のフェリーとしてトップクラスです。非常に人気が高く、予約はすぐに埋まってしまう。

船内にはクルーズ船を意識した設備も整っています。ショーラウンジではピアノ演奏やバンド、歌などのステージが日替わりで行われ、映画上映も実施されています。長時間の船旅でも飽きさせない工夫が随所に感じられます。

この航路ならではの楽しみの一つが仙台港への寄港です。貨物の積み下ろしのため約2時間停泊し、その間は一時的に下船でき、港周辺で買い物を楽しめます。

船好き目線で特に注目してほしいことは、仙台港入港前後に見られる姉妹船とのすれ違いです。

大階段が特徴的な商船三井さんふらわあ別府航路を走る船のロビー



他の航路でも船同士が行き交うことはありますが、ある程度の距離を保つのが一般的です。それに対してこの航路では、驚くほど近い距離ですれ違い、お互いに汽笛を鳴らします。ここまで間近に感じられることは珍しく、迫力も十分です。時間が近づくとアナウンスが流れ、多くの乗客がデッキに出て姉妹船に手を振ります。すっかり名物のような光景になっています。

景色にも見どころがあります。苫小牧へ向かう間は三陸海岸沿いを航行し、比較的陸地に近いルートを走るため、沿岸の風景を楽しめます。特に上りだと仙台に入る手前、下りだと仙台を過ぎた頃に見える金華山周辺は必見です。この辺りはリアス式海岸特有の複雑な海岸線が続き、変化に富んだ景観が広がります。東北ならではの風景を味わえるのも、この航路のポイントです。

小樽—舞鶴(新日本海フェリー) 2隻の新造船で長時間の航海が快適に 約30ノットの高速航行を体感

中村 この区間も20時間以上を要する長距離航路で、午後11時50分に出港して翌日の午後8時45分に到着するダイヤとなっています。

2025年11月に「けやき」が就航し、今年中に「はまなす」もデビューします。どちらも新造船なので船内は非常に快適です。

見どころの一つはやはりスピード感です。日本海をほぼ一直線に進む航路のため速力が出やすく、約30ノット(約55km/h)で航行します。私の知る限りでは日本でもトップクラスの速さです。スピードが出ている感覚や豪快さを体感できるの

が特徴ですね。

また、船首に設けられた展望ラウンジもおすすめです。展望ラウンジは多くのフェリーにありますが、この船は少し珍しい2層構造になっていて、海の景色をより楽しめます。

船内には本格的な料理を味わえるレストラン「グリル」があります。フェリーの食事はビュッフェ形式やカフェテリア形式が一般的ですが、ここではコース料理が用意されています。メニューは小樽の一流ホテルが監修しており、食事そのものを楽しみに乗船する方にとっても魅力の一つだと思います。クルーズ船のディナーのような雰囲気味わえるのも、この航路ならではのですね。

新日本海フェリーの航路は沖合をまっすぐ進むため、太平洋航路のように陸地が見えるわけではありません。日本列島の形状もあり、北海道と関西を最短で結ぶようなルートを走るため、日本海の広がりダイレクトに感じる時間が続きます。

もちろん、見どころがないわけではありません。北海道へ向かう航路では津軽海峡付近で渡島大島の近くを通ります。日本最大の無人島として知られ、普段はなかなか目にする機会のない島なので思い出に残るでしょう。北海道から舞鶴へ向かう便では、海へ大きく突き出した能登半島の近くを通ります。日本海の中でも景色が変わり、見どころの一つです。

大阪—別府(商船三井さんふらわあ) 歴史と伝統が今も残る航路 年に数回の昼便がおすすめ

中村 商船三井さんふらわあは北海道や志布志、

ホルムズ海峡クライシス News Log 4

— 4月26日～6月19日 —



2月28日に米とイスラエルが行ったイラン攻撃でホルムズ海峡封鎖の事態が起きている。本稿では海軍産業の視点から、ホルムズ海峡関連情報や経済的影響、海運業界動向といったニュースを時系列的に拾い上げた。日本経済新聞の報道を中心に整理している。なお実際に起きた事象と報道の日付には一部ずれがある。また今回の軍事衝突に直接関係がなくても関連情報として入れているものもある。

©AustralianCamera/Shutterstock.com

4/26

- ・ **トランプ** トランプ米大統領が25日出席したホワイトハウス記者会主催の晩餐会で銃撃事件が発生。トランプ大統領はじめ出席した重量閣僚は回避し、無事。
- ・ **トランプ** トランプ米大統領は25日、イランとの戦闘終結に向けた交渉団の派遣を取りやめたと表明。SNSへ投稿。

(以上、日経4/27)

4/27

- ・ **マーケット/為替** 27日の東京株式市場で日経平均株価が終値でも初めて6万円台に乗せる。前週末比821円18銭(1.4%)高い6万537円36銭。25年10月の5万円到達から半年で1万円上げる。
- ・ **企業** 出光興産がベトナムに原油400万バレル規模を提供することが27日に分かる。ホルムズ海峡を通らないルートで調達。
- ・ **イラン** 米ニュースサイトのアクシオスは26日、イランが仲介国のパキスタンを通じて米国に戦闘終結に向けて新たな提案を出したと伝える。ホルムズ海峡の開放を先に実現した後に核問題を交渉する内容。

(以上、日経4/28)

4/28

- ・ **金子国交大臣** 本日7時時点で把握していること。海運関係：ペルシャ湾内に日本関係船舶42隻が

留まる。変化なし。

(金子大臣会見要旨 4/28 10:09-10:24)

- ・ **企業/海運** 出光興産の大型石油タンカーが28日、ホルムズ海峡を通過した可能性。軍事衝突以降、元売り大手所有の船舶がペルシャ湾から出たことがわかるのは初めてとみられる。船舶情報サイト「マリントラフィック」によると、「出光丸」1隻。
- ・ **その他** 英国クーパー外相が日本経済新聞に寄稿。制限や条件のない通航の再開に向けて同土国と外航圧力を強めると訴える。通航料を認めれば世界の海上貿易にとって有害な前例となると警鐘。
- ・ **トランプ** トランプ米大統領は27日、戦闘終結に向けたイランの新提案を安全保障担当の政権高官らと協議。米メディアによると新提案に懐疑的な見方を示す。米国内法上のイラン攻撃の撤収期限は5月1日。
- ・ **米国** ベッセント米財務長官が27日に声明を発表。米軍によるイラン港湾の封鎖措置によってイランの石油生産が停滞し始めていると言及。
- ・ **政府** 財務省が28日に発表した3月の貿易統計(確報値)によると中東から輸入するナフサの量が前年同月から40.0%減少。輸入量は82万6860kl。2022年3月以来の低水準。
- ・ **周辺国** UAE(アラブ首長国連邦)は28日、5月1日付でOPEC(石油輸出国機構)から脱退すると発表。「OPECプラス」からも脱退する。同国の原油

生産量は日量約300万～350万バレル。

- ・ **原油** ブラジル開発・工業・貿易省によると、3月の原油輸出量は前年同月比で8割近く増加。国別では最大の中国向けが2.2倍、米国3倍、インド2.8倍。
- ・ **団体** 日本中古車輸出業協同組合が28日に発表した3月の中古車輸出台数でUAE向けが94%減に。台数は1499台。前月比で92%減。

(以上、日経4/29)

4/29

- ・ **海運** 日本船主協会の長澤仁志会長が、日本関係船のホルムズ海峡出域に関してコメントを発表(関連記事KAIUN 6月号45頁)。

(日本船主協会、4/29)

- ・ **企業/海運** ペルシャ湾で足止めされていた出光興産の大型タンカー「出光丸」が28日、ホルムズ海峡を通過してオマーン湾の公海へ出る。日本政府高官は「日本政府が交渉していた成果だ」「通航料は払っていない」と語る。62日ぶりの「脱出」。船舶情報サイト「マリントラフィック」によると、同船は28日午前7時(世界標準時)ごろ、ホルムズ海峡を通過。イラン国営テレビも28日、出光丸がイラン当局との調整の上で同海峡を通過した報じる。
- ・ **米国** 米CNNテレビは28日、イランが戦闘終結に向けた提案の改定案を数日中に示す可能性があるとして報じる。

(以上、日経4/30)

4/30

- ・ **政府** 政府と日銀は30日、為替介入を実施。一時1ドル=160円台後半の対ドル相場は同155円台に。
- ・ **政府** 高市早苗首相は30日、中東情勢に関する関係閣僚会議でナフサの供給状況を説明。「半年以上」としていた供給目途に関し、「年を越えて継続できる」と表明。
- ・ **米国** トランプ米大統領は29日、イランとの戦闘終結に向けた協議を巡り、核問題を先送りするイランの提案を拒否すると表明。イラン港湾の海上封鎖を数カ月続ける考えを示す。米ホワイトハウス当局者が明らかに。
- ・ **政府** 経済産業省は30日、原油国家備蓄の第二弾放出を5月2日に始めると発表。国内消費量の20日分程度にある約580万klをENEOS、出光興産、

コスモ石油、太陽石油の元売り4社に計5400億円で売却。

(以上、日経5/1)

5/1

- ・ **企業** 石油元売り4位の太陽石油は1日、ロシア産原油を調達したと明らかに。ロシア極東の石油・天然ガス事業「サハリン2」で生産する原油をスポット(随意契約)で購入。

(以上、日経5/2)

5/2

- ・ **米国/イラン** トランプ米大統領は1日、イラン攻撃について「早期撤退」を否定。中東の衛星テレビ局アルジャズィーラは1日、革命防衛隊がホルムズ海峡などイラン沿岸の海域で「新たな規則」を施行すると報じる。海軍がイラン沿岸約2000kmを支配、この海域を「イラン国民の力の源泉」に。
- ・ **トランプ** トランプ米大統領は1日、議会にイランとの敵対行為は「終了した」と文書で通知。「4月7日以降、米国とイランの間で交戦は発生していない」と記し、すでに停戦していると強調。「2月28日に始まった敵対行為は終了した」とも記載。連邦議会の承認がないまま始めたイランとの軍事衝突。60日以内の撤収を求める戦争権限法の期限は5月1日。
- ・ **政府** 資源エネルギー庁の石油統計速報によると、3月の石油輸入量は前年同月比17%減の1038万kl。1989年以降で過去最低。ホルムズ海峡以西のペルシャ湾内の国からの輸入が滞る。カタールが81%減、クウェートが64%減、UAEが22%減。

(以上、日経5/3)

5/3

- ・ **イラン** イランが米国との戦闘終結に向けて14項目の提案を提出。同国のタスニム通信によると、米軍による海上封鎖の解除、ホルムズ海峡の新たな枠組み、賠償金の支払いを求め、米国からの回答待ち。
- ・ **欧州** イスラエルとイランの軍事衝突で攻撃を受けた中東のエネルギー施設の修復などに最大580億ドル(約9兆円)かかると欧州の調査会社が試算。

(以上、日経5/4)

5/4

- ・ **トランプ** トランプ米大統領は3日、ホルムズ海峡で足止めされている船舶と乗組員を安全に脱出

研修講座・セミナーのご案内

今月の研修講座・セミナー

※各研修講座・セミナーは、予告なく変更となる場合がございます。
最新情報は当所ウェブサイトをご覧ください。 <https://www.jseinc.org/seminar/index.html>

●海運実務研修講座

※会場は、特別な記載がない限り、日本海運集会所の会議室です。定員は46名です。

11	輸出入の業務、国際物流を支えるプロになる 港湾・物流基礎（全1日）	レベル	★
日時	7月2日（木曜日） 13:30～17:00		
講師	元商船三井、元ジャパンエクスプレス 専務取締役・顧問 春山 利廣氏		
受講料	会員：13,200円（税込） 非会員：26,400円（税込）		
12	初めて学ぶ、海運特有の会計の基礎 入門 会計と海運業（全3回）	レベル	★
日時	7月8日、15日、22日（毎週水曜日） 15:30～17:00		
講師	公認会計士 見尾 昌彦氏（EY 新日本有限責任監査法人 シニア） 公認会計士 増田 祥之氏（EY 新日本有限責任監査法人 シニア） 公認会計士 根本 裕香氏（EY 新日本有限責任監査法人 シニア）		
受講料	会員：19,800円（税込） 非会員：39,600円（税込）		
13	船主業務における海運特有の法人税制を学ぶ 税務・会計基礎（全1日）	レベル	★★
日時	7月16日（木曜日） 13:30～17:00		
講師	GPP 税理士法人 公認会計士・税理士 中島 毅氏		
受講料	会員：13,200円（税込） 非会員：26,400円（税込）		
14	船舶損害のリスクを補填する保険の基礎知識 船舶保険 入門（全3回）	レベル	★★
日時	7月29日、8月5日、12日（毎週水曜日） 15:30～17:00		
講師	東京海上日動火災保険 コマーシャル損害部 船舶第一グループ 課長代理 野間口 大氏		
受講料	会員：19,800円（税込） 非会員：39,600円（税込）		

●関西地区 海運実務研修講座

※会場は、神戸国際会館等です。定員は24名です。

3	内航船における契約書式を改めて学び、理解を深める 内航傭船契約	レベル	★★
日時	7月31日（金曜日） 13:15～16:40	場所	神戸国際会館セミナーハウス 8階 804号室
講師	田川総合法律事務所 弁護士 黒田 直行氏		
受講料	会員：13,200円（税込） 非会員：21,120円（税込）		

2026年度研修講座・セミナー

※各研修講座・セミナーは、予告なく変更となる場合がございます。
また、予約は行っておりません。ご了承ください。

●海運実務研修講座（2025年度開催実績より編成）

予定月	テーマ	レベル	予定月	テーマ	レベル
9月	15 船舶管理実務（全1日）	★★	11月	25 海技の知識（全3回）	★★
	16 船の技術知識あれこれ（全1日）	★		26 不定期船実務の基礎知識（陸上編）	★★
	17 タンカー基礎講義（仮）	★	27 P&I保険の基礎（全4回）	★★	
	18 船荷証券の基礎（全3日）	★★	12月	28 船の技術知識あれこれ（全1日）	★
10月	19 英文契約書の読み方（2）（全1回）	★★	1月	29 内航海運概論（全1日）	★
	20 定期傭船契約（全4回）	★★		30 洋上風力関連船に関する特殊傭船契約の基礎（全3回）	★★★
	21 ケミカル/プロダクトタンカーの運航/荷役の実務（基礎編）（1日）	★★	2月	31 内航傭船契約（全1日）	★★
	22 〈T4日程〉新人社員研修（秋）（連続2日間）	★		32 船舶保険実務（中級）（全1日）	★★★
	23 不定期船実務の基礎知識（陸上編）	★★		33 船舶売買の実務（全3回）	★★
11月	24 船荷証券の実務上の問題点（中級）（全3日）	★★★	3月	34 Laytimeの基礎知識（ドライバルク）（全1日）	★★★

●関西地区 海運実務研修講座（2025年度開催実績より編成）

予定月	テーマ	レベル	予定月	テーマ	レベル
11月	4 船舶管理実務	★★	3月	7 入門 会計と海運業	★
12月	5 船舶金融詳説	★★★		8 定期傭船契約（1日）	★★
1月	6 船舶保険 入門	★★			

●一般セミナー

予定月	テーマ	予定月	テーマ
11月	世界の石炭需給及び価格動向	1月	自動運航船の開発状況と実用化への展望2027
12月	船舶売買書式（NIPPONSALE）の考察	2月	LNG市場動向
	国際海運の脱炭素化に関する動向		洋上風力発電と海運
	代替燃料船の課題とその普及に向けた取組	随時	DX関係（仮）
	解剖・ドライバルク市況（仮）		サイバーセキュリティ関係（仮）
	海運業における改正後リース会計基準の影響と実務上の留意点		船舶における代替燃料の概要と課題

注 ・すべての講座・セミナー資料は、当日配布します。事前送付やデータでの提供はありません。また、終了した講座・セミナー資料の提供も行っておりません。
・会場での写真撮影、ビデオ撮影、録音は固くお断りします。 ・講義中にノートパソコンでメモを取ることはお控えください。
・講義中は必要に応じてマスクの着用をお願いします。 ・会場でのお食事はご遠慮ください。
・レベル表記は、★：入門（新人・中途入社）、★★：初・中級（実務経験1年～）、★★★：中級（実務経験1～3年ぐらいまで）です。
*感じ方には個人差があり、レベル表記はあくまで目安です。

セミナーについて

申込方法や期間・内容等について	各種研修講座・セミナーの詳細は、開催の約3週間前にJSEメール通信、ウェブサイトでご案内しています。受講申込は、東京開催の場合は、正会員を優先とし、E-mailの先着順で受け付け、定員に達した時点で締め切ります。 *講師・内容などは変更になる場合があります。 *会員のグループ会社、子会社等は非会員です。 https://www.jseinc.org/seminar/index.html
受講料について	各種研修講座・セミナーにより異なります。原則として、1回あたりの講義時間は90分、受講料は6,600円（税込、会員価格）です。ご案内のJSEメール通信やウェブサイトをご確認ください。
会場について	基本的に日本海運集会所の会議室（定員46名）、関西地区は神戸国際会館等（定員24名）です。
お支払いについて	郵便振込または銀行振込にてお願いいたします。請求日より30日以内を目途にお手続きください。お振込みいただいた受講料は、開催中止の場合を除き返金できません。
キャンセルについて	キャンセルは、開催2営業日前の16:00までにご連絡ください。それ以降に、参加できなくなった場合には、代理出席をお願いいたします。代理出席が難しい場合には、後日資料の郵送をもって出席とさせていただきます。また、当日欠席の場合も後日資料の郵送をもって出席とさせていただきます。
よくあるご質問	ウェブサイトをご参照ください。 https://www.jseinc.org/seminar/q&a/seminar_q&a.html



◆お問い合わせ 海事知見事業グループ（セミナー） TEL 03-5802-8367 E-mail project@jseinc.org

船上のIT・システムを共通標準化

商船三井

商船三井は船上におけるIT設備・システム仕様の共通標準を新たに整備した。

従来、船上のIT設備・システムは船種や造船所、船舶管理会社ごとに異なる仕様が採用されていた。そのため、新システムを導入する際には船ごとに適用可否の事前調査が必要な場合があり、効率的なシステムの採用や活用を妨げる要因となっていた。

商船三井は今回、IT設備・システムを統一することで、船上におけるAI・デジタル技術の活用やサイバーセキュリティ強化を支える基盤を段階的に構築する方針だ。今後は新造船の設計段階から共通標準の適用を進める。将来的には既存船にも順次展開していく。(発表：6月9日)

米国初の洋上LNG設備にFID

商船三井

商船三井は米国初となる洋上LNG設備(FLNG)プロジェクトへの正式な出資参画を決めた。プロジェクトを開発する米国のDelfin Midstream, Incやインフラ投資運用会社Global Infrastructure Partnersを中心とした出資者グループ、LNGトレーディング会社であるVitol社と共に最終投資決定(FID)を行った。

このプロジェクトは年間440万トンの液化能力を有する世界最大級のFLNG事業であり2030年頃の生産開始を見込む。総事業費は約50億米ドルに上り出資者による総出資額は約14億米ドル。商船三井はそのうち約3億米ドルを出資する予定だ。また、同社によれば日本の海運会社としてFLNG事業に参画するのは初めてだという。

事業では米国本土で調達した原料ガスを既設パイプライン経由で、ルイジアナ州南部沖約40マイルに設置するFLNGへ輸送する。FLNG上で液化したLNGをLNG船に積み込み、購入者へ引き渡す。

商船三井は出資者として参画するだけでなく、浮体式LNG貯蔵再ガス化設備(FSRU)事業で培った洋上浮体設備に関する知見や、船舶間で貨物を移送するShip-to-Ship(STS)オペレーションの安

全管理ノウハウを提供する。金融面を含め、プロジェクトを幅広く支援する方針を掲げている。

(発表：6月4日)

豪州産LNGを船舶で日本に輸送

JERA

JERAは豪州パロッサガス田開発プロジェクト生産のLNGを積載した「総州丸」が同社の富津火力発電所敷地内の富津LNG基地に到着したと発表した。

このプロジェクトでは豪州北部準州沖合のパロッサ・カルディターガス田で産出した天然ガスを原料にLNGを生産している。生産能力は年間約340万tに上る。JERAは同プロジェクトに事業費12.5%を出資しており、年間約42.5万tのLNGを引き取る契約を結んでいる。

中東情勢の緊迫化をはじめ地政学リスクが高まる中、JERAは同プロジェクトからの供給開始は安定的なLNG調達と日本のエネルギー安全保障の強化につながるとしている。今後は中東、アジア太平洋地域、米国からの調達をバランスよく組み合わせ、地域リスクを分散したLNGポートフォリオの構築を進める。(発表：6月12日)

「世界島嶼国海洋会議」を初開催**世界の島嶼国35カ国が参加**

日本財団

日本財団は外務省およびユネスコ政府間海洋学委員会との共催で、世界の島嶼国の首脳らが海の保全や利用について議論する国際会議「世界島嶼国海洋会議(Island States Ocean Summit)」を実施した(写真)。6月3日と4日に東京都のホテルニューオータニで開催され、3日には天皇陛下がご臨席された。陛下は開会式で「海面上昇など数々の困難に直面している現代にあって、私たちの連帯が世界に調和と希望をもたらすことを願います」と英語で話された。また、開会式には高市早苗総理も出席した。高市総理は「様々な課題を解決し、法の支配に基づく持続可能な海洋を実現するためには、志を同じくする皆様との連携が欠かせない」とした上で、この会議が国際社会の「新たな動きを作り出すきっかけとなることを期待して

いる」とあいさつした。

翌4日には、日本財団の笹川陽平名誉会長が本行動計画「OCEAN STATES INITIATIVE」を発表した。この行動計画は日本財団の島嶼国に対する支援の方向性を示すもので、「人材育成による島嶼国支援の強化」「育成した人材をつなげ、力を引き出す“場”の設置」「世界各国および国連を巻き込む革新的な事業の開発」の3本柱で構成される。具体的には、島嶼国の課題解決を担うグローバル人生の育成や、世界トップレベルの研究機関が参加するコンソーシアムの形成などに取り組んでいくことが盛り込まれた。



天皇陛下(中央)と高市総理(右端) (提供：日本財団)

**風力発電事業向けに
落雷監視システムを開始**

三井住友海上火災保険ほか

三井住友海上火災保険とMS&ADインターリスク総研は洋上および陸上の風力発電事業者向けに落雷監視システムと落雷リスク調査レポートの提供を開始した。

落雷監視システムは複数台のカメラが雷検出装置で落雷を検知した瞬間に自動撮影する。雷の軌道を捉える高感度カメラを用いて正確な記録や着雷箇所の特長を可能とする。撮影画像に加えて、落雷時刻や雷の強度といった情報も事業者へ自動通知する。事業者は落雷発生後にカメラを遠隔操作することで、被害状況を詳細に確認できる。

併せて、MS&ADインターリスク総研が落雷データを分析して落雷事故発生時の対策提案レポートや年間の落雷回数、月別の発生傾向をまとめた定期レポートも提供する。

陸上風力発電では落雷を原因とする事故が多数発生している。洋上風力発電でも同様のリスクが想定されるほか、陸地から離れた沖合に設備が設置されるため被害状況の確認が難しい。このため、

安全かつ効率的な落雷監視手法の確立が課題となっている。(発表：5月29日)

山縣勝見賞の受賞者が決定

山縣記念財団

山縣記念財団は「2026年山縣勝見賞」の受賞者を発表した。

「論文賞」には2025年3月に近藤智士氏(現・福井工業大学経営情報学部経営情報学科教授)が発表した「日本におけるコンテナ共同利用による国際物流の効率化に関する研究」を選んだ。実務上の問題意識を背景に新たな着想で取り組んだ研究であり、学術面に加え実務面でも意義が大きい点を評価した。

「功労賞」には東京海洋大学の苦瀬博仁名誉教授を選出した。長年にわたりロジスティクス・物流分野の発展に学術面と公益面の双方から大きく貢献した功績をたたえた。

「著作賞」と「特別賞」は該当者なしとした。各賞の贈呈式は7月21日に東京都内で開く。

(発表：6月7日)

**グリーン経営認証の永年表彰事業所を
発表**

交通エコロジー・モビリティ財団

交通エコロジー・モビリティ財団はグリーン経営認証の10年・20年継続登録事業所を対象とする永年表彰の受賞事業所を発表した。

10年永年表彰では、トラック運送部門でDOWA通運仙台営業所など3事業所、内航海運部門でNAVTECが選ばれた。

20年永年表彰事業者では、トラック運送部門で王子陸運宇都宮営業所やヤクルトロジスティクス茨城営業所など35事業所が選定された。このほか、タクシー部門で国際自動車板橋営業所、旅客船部門で商船三井さんふらわあ西日本本部、倉庫部門で中央倉庫京都支店梅小路営業所など5事業所が表彰を受けた。

併せて、5月にグリーン経営認証に新規登録された事業者も公表した。トラック運送部門でトヨタ輸送函館営業所、倉庫部門でティールロジの3営業所の計4事業所が登録された。(発表：6月5日)

RORO船活用の機運醸成に意欲

内航大型船輸送海運組合

内航大型船輸送海運組合(大型組合)は6月15日、通常総会を開催した。総会後の会見で加藤由起夫会長(北星海運社長)は、今年3月に国土交通省が策定した運賃・用船料の「標準的な考え方」に対し、「高市内閣の重点事項である価格転嫁の徹底や取引適正化の推進を内航海運の世界で具体化するもの」と期待を寄せた。

物流の2024年問題への対応については「RORO船の輸送力拡充は政策パッケージにも位置づけられており、必ず実行しなければならない」と説明。大型組合がリードして、日本国内で「物流でRORO船を使わないのは時代遅れ」という機運を創出することに意欲を見せた。

モーダルシフトの進捗状況に関しては関光太郎副会長(近海郵船社長)が「消費低迷や建設工事の遅延などマイナス要因は多いが、定期船による雑貨輸送は前年並みだった」とし、数値的な把握が難しい中でも「(モーダルシフトで)相当数の貨物が入ってきていると推測できる」と明かした。

また、蓮実学副会長(商船三井内航社長)は鋼材や石炭など不定期船分野の市況について「足元ではホルムズ海峡封鎖の影響はそれほど大きくない。今年度(の荷動き)は前年度とほぼ同程度になる」との見解を示した。



(左から)蓮実氏、加藤氏、関氏

適正な価格転嫁に向けて独自に準備

全国海運組合連合会

全国海運組合連合会(全海運)は6月17日に第68回通常総会を執り行った。藏本由紀夫会長(吉祥海運社長)は総会後の会見で「(従前から)自分自身に課している重点課題が①適正な料金の取受②船員問題③業界ビジョンの策定。今年度もこれら

スポットを当てて活動していく」と語った。

藏本会長は国土交通省が今年3月に策定した運賃・用船料の「標準的な考え方」については「実際の交渉で活用できるよう普及促進を図るとともに、活用を妨げる課題への対応を考えたい」と意欲を見せた。日本内航海運組合総連合会とは別に全海運独自で適正な価格転嫁の実現に向けた準備を進めていく方針だ。

船員需給の実態に関しては岡本信也副会長(岡本海運社長)が「海技教育機構などに聞くと、先生が高齢化して後継者がいないようなので、個人的には外国人の先生を雇ってはどうかと思っている」と述べた。会見にはこのほか、荒川和音副会長(丸三海運会長)、村田泰副会長(八重川海運社長)、木許直樹副会長(南光汽船社長)、高橋徹専務理事が出席した。



(左から)高橋氏、村田氏、岡本氏、藏本氏、荒川氏、木許氏

運賃・用船料の適正化を推進へ

関東沿海海運組合

全国海運組合に所属する関東沿海海運組合は5月26日、総会を開き、2026年度事業計画を承認した。

事業計画では国土交通省が3月に公表した適正な運賃・用船料を算出する「標準的な考え方」の活用を推進することで合意した。合理的な根拠に基づく価格交渉を通じ、運賃・用船料の適正化を図る方針だ。このほか、ゼロエミッション船の導入促進に向けた今後の取り組みの方向性を議論するほか、船員の働き方改革への対応を進めることも決めた。

総会後の懇親会で榎本成男理事長(榎本回漕店社長)は適正な運賃・用船料について、「我々はガイドラインを活用して取り組まないとも効果がない。持続可能な運賃・用船料を求めていただきたい」と強調した。

国民の祝日「海の日」

物流があるから、
世界はいつも新しい。

モノを作っている人がいて、売っている人がいる。
そこには必ず「つなげる人」がいる。正確に、丁寧に、安全に。
あなたの手元から、新たな景色を広げるために。

ヒト、モノ、コトの接点を生み出す。ケイヒングループ。

ケイヒン株式会社 www.keihin.co.jp



本牧埠頭流通センター



物流を通じて豊かで平和な生活と社会づくりに貢献しています

- 【事業内容】 ●コンテナターミナル事業 ●自動車船荷役事業 ●倉庫事業 ●在来船荷役事業
●曳船事業 ●海上防災事業 ●船舶代理店事業 ●不動産事業 ●海貨・輸出入通関事業
●内航海運事業 ●中国船社営業代理店事業 ●海外事業 ●国内物流事業

Daito 株式会社 **ダイトコーポレーション**

代表取締役社長 浅野 敦男



本社:東京都港区芝浦2-1-13 TEL:03-3452-6271 支店:横浜、千葉
<https://www.daitocorp.co.jp/>



愛されつづける、風がある。

- 船舶用空調
- 冷凍冷蔵設備
- エレベータの製造販売
- 陸上空調設備
- 冷凍冷蔵設備の設計、施工

潮冷熱株式会社

<http://www.ushioreinetsu.co.jp>

- ・一般港湾運送事業・貨物運送取扱事業・倉庫業・海運代理店業
- ・通関業・梱包請負業・港湾荷役・損害保険代理業

新洋海運株式会社

代表取締役 社長執行役員 稲葉 徹志

本 社 〒590-0954 堺市堺区大町東1丁1番10号
TEL (072) 238-1161 FAX (072) 223-4050
URL <https://www.shin-yo.co.jp/>

支 店:南港・泉北 営 業 所:博多・東京
事 業 所:桑名・宮崎・大浜・塩浜 海外現地法人:ベトナム・タイ

国民の祝日「海の日」

デジタルを核にしたマリンテクノロジーのエキスパート集団

MOL 商船三井マリティクス株式会社

本社 〒105-0001
東京都港区虎ノ門 2-1-1 商船三井ビル LB階
URL: <https://www.mol-maritex.co.jp>

当社ホームページはこちら

株式会社ジェネック アジアパシフィックマリン株式会社

代表取締役社長 中島 浩一

株式会社ジェネック

〒801-0852 北九州市門司区港町9-11
門司港レトロスクエアセンタービル3F

TEL 093-331-2101 FAX 093-332-2112
<https://www.geneq.co.jp>



アジアパシフィックマリン株式会社

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野二丁目14-1
KMMビル7F

TEL 093-513-8620 FAX 093-513-8621
<https://www.ap-m.co.jp>



一般港湾運送業・通関業・国際複合輸送業

第一港運株式会社

代表取締役社長 岡田 幸重

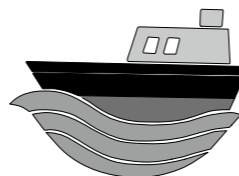
本社 東京都江東区清澄1-8-16
横浜支店 横浜市中区太田町4-55
松山支店 松山市堀江町甲527-1
品川営業所 東京都品川区東品川5-4-36
大井営業所 東京都大田区東海5-1-1 (大井海貨上屋1号棟内)

電話 03(3642)3255 (代表)
電話 045(201)0825 (代表)
電話 089(979)4490 (代表)
電話 03(3474)9223
電話 03(5429)7443

海外事務所: 韓国・釜山、ベトナム・ダナン
海外法人: PT.DAIICHI KOUN INDONESIA. (スラバヤ)

DAIICHI KOUN (THAILAND) CO., LTD (バンコク) website: <https://www.daiichi-koun.com>

KYOIZUMI 株式会社京泉工業



代表取締役社長 京泉 晴洋

〒722-0073 広島県尾道市向島町 16061-18
TEL (0848) 44-3313 / FAX (0848) 45-3338

社会と社員の3A(安全・安心・安定)を追求する
<https://kyoizumi.co.jp/>



国民の祝日「海の日」

海運業及びこれに付帯する事業並びに船舶管理業、船員派遣業

太平洋汽船株式会社 太平洋沿海汽船株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町一丁目3番地1 NBF小川町ビルディング7階
電話 03(5217)3050(代) FAX 03(3259)1766
URL <http://www.taiheiyo-kisen.co.jp/>

太平洋沿海汽船
<https://www.taiheiyo-enkai.co.jp/>
太平洋汽船グループ
公式Xアカウント @taiheiyo_group



※太平洋沿海汽船にて内航船員募集中!! お問い合わせ: TKK.ML.SAIYO@nykgroup.com



KONOIKE
GROUP

KONOIKE 2030 VISION 技術で、人が、高みを目指す

先端テクノロジーを使いこなす次世代のKONOIKEスピリットで、
お客さまと社会の課題解決を図る「現場のあり方」を進化させていきます。

鴻池運輸株式会社 Konoike Transport Co., Ltd.

大阪本社 » 〒541-0044 大阪市中央区伏見町 4-3-9 TEL 06-6227-4600(代表) 代表取締役会長兼社長執行役員 鴻池 忠彦
東京本社 » 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-10-1 TEL 03-3575-5751(代表) グループ国内拠点数:182 / 海外拠点数:37



Tel (固定電話機能) + intercom (インカム機能) を、スマートフォン1台 (One) に統合



スマホが使える場所ならどこでも「代表電話」「インカム」通話がお手持ちのスマホで可能になります

株式会社エスペラントシステム <https://www.ess-g.com/contact>



マルチモーダル輸送システムのベルーガサービス

営業種目 港湾運送事業・船舶代理店業・通関業・貨物自動車運送事業
貨物利用運送事業・倉庫業・曳船業

博多港運株式会社

代表取締役社長 村田 成生



AEO
JAPAN
AEO通関業者

本社 福岡市博多区石城町14-3
TEL 092-281-7651 FAX 092-281-2497
東京営業所 TEL 03-3551-0951 FAX 03-3551-0953
URL: <https://www.jpht.co.jp>

国民の祝日「海の日」

世界トップレベルの共同海損・単独海損精算業務を通じて、
お客様に最高のサービスを提供します。

浅井市川海損精算所

Asai & Ichikawa, Average Adjusters

代表取締役社長 中島 清一

■共同海損部 ■船舶損害部 ■貨物損害部 ■コンサルティング部

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5-16 名古屋ビル新館4階
TEL: 03-3233-3621 (代表) FAX: 03-3233-3624

<https://www.asai-ichikawa.co.jp>



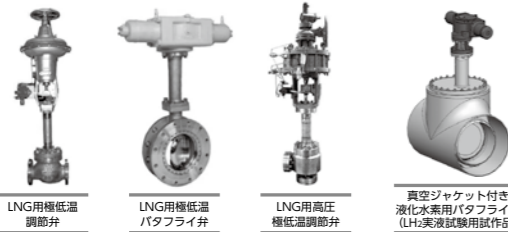
株式会社 浅井市川海損精算所
(Founded 1925)

株式会社 中北製作所

NAKAKITA SEISAKUSHO CO., LTD.

流体制御システムの総合メーカー

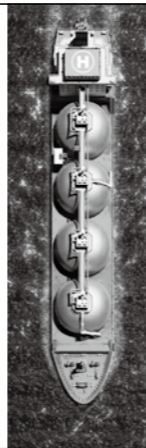
脱炭素社会の実現に向けたエネルギーシフトの動きが加速する中、中北製作所は「流体制御システムの総合メーカー」として、
水素やアンモニアといった新エネルギーに適用可能な製品供給を通じて、カーボンニュートラルに貢献してまいります。



株式会社 中北製作所

本社・工場 〒574-8691 大阪府大東市深野南1番1号
072-871-1341 bus@nakakta-s.co.jp
東京営業所 〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目27番17号 三和ビル
03-3431-7201
北九州営業所 〒802-0001 北九州市小倉北区浅野2丁目11番15号 KMM別館
093-531-5481

ZERO EMISSIONS CHALLENGE [革新的環境イノベーション戦略]に掲げる39テーマに紐づく国家プロジェクトを受託していることから、ゼロエミ・チャレンジ企業の一社に選ばれました。



国立大学法人 東京海洋大学

学長 井関 俊夫

理事・副学長 舞田 正志 理事・副学長 南 清和
理事・副学長 村上 良行 理事 内藤 忠顕
理事 渡辺 善子 特命理事・副学長 妻 小波
監事 藤原 葉子 監事 加藤 聡

大学院海洋科学技術研究科 研究科長 北出 裕二郎

品川キャンパス 海洋生命科学部 学部長 小暮 修三
海洋資源環境学部 学部長 宮本 佳則
東京都港区港南4-5-7 ☎03-5463-0400 (代表)

越中島キャンパス 海洋工学部 学部長 久保 信明
東京都江東区越中島2-1-6 ☎03-5245-7300 (代表)

Since 1939
未来を描く
歴史を刻む

私たち福田印刷は、お客様のニーズをより良いカタチにし、
想いを寄せた印刷制作で、信頼と安心を誇りに応えてまいりました。

これからも、価値ある問題解決に向けた伝達を、
お客様と一緒に未来に向け「今」を描いていきます。



<https://www.fukuda-p.co.jp>

福田印刷工業株式会社
FUKUDA PRINTING CO., LTD.

本社 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町4丁目6番3号
Tel: 078-811-3131 Fax: 078-851-8443
東京事業部 〒104-0045 東京都中央区築地2丁目2番6号
Tel: 03-3543-7371 Fax: 03-3541-7396

国民の祝日「海の日」

日本船舶代理店協会

会長 岡田 幸重
副会長 山口 淳

〒108-0022 東京都港区海岸三丁目26-1
パーク芝浦5階
電話 (03) 5444-2033
FAX (03) 5444-2034

国際複合輸送を担うわが国最大の海運フォワーダー団体



一般社団法人 国際フレイトフォワーダーズ協会
会長 笠井 達二
〒104-0033 東京都中央区新川1-16-14 アクロス新川ビル・アネックス4階
電話 (03) 3297-0351 (代表) FAX (03) 3297-0354
e-mail: gene@jiffa.or.jp URL: <https://www.jiffa.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 明 珍幸一

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3階
電話 03(5761)6050 FAX 03(5761)6058
<https://www.nikkaibo.or.jp>

一般社団法人 東京港運協会

会長 鶴岡 純一

〒108-0022 東京都港区海岸三丁目26番1号
パーク芝浦4階
TEL 03 (5444) 2151
FAX 03 (5444) 0866
<https://www.tkkukk.or.jp>

公益財団法人 日本海事広報協会

会長 長澤 仁志
理事長 岡部 直己

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6 湊SYビル
TEL (03) 3552-5031 (代) FAX (03) 3553-6580
URL <https://www.kaijpr.or.jp>

情報誌 海運 KAIJUN 6月号

特集

フィジカルAI時代到来 海事産業を変革するAI×ロボットの新潮流

ご注文は(一社)日本海運協会 総務グループまで
TEL: 03-5802-8361 E-mail: order@jseinc.org

一般社団法人 日本舶用工業会

会長 木下 和彦

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-13-3 (虎ノ門東洋共同ビル)
電話 03(3502)2041 FAX 03(3591)2206
<https://www.jsmea.or.jp/>

公益財団法人 日本海事センター

会長 宿利 正史

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
海事センタービル
電話 03(3265)5481 FAX 03(3222)6840

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 中島 正歳

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-4-5
(川村八重洲ビル2F)
電話 (03) 3552-6310 FAX (03) 3552-6311
E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp
<http://www.ymf.or.jp/>

JCTC 一般社団法人 日本貨物検数協会

代表理事会長 木村 武

〒104-0045 東京都中央区築地一丁目13番14号
NBF東銀座スクエア 8階・9階
TEL (03) 3543-3212
<https://www.jctc.or.jp>

一般社団法人 日本中小型造船工業会

会長 田中 敬二

〒100-0013 東京都千代田区霞が関三丁目8番1号
(虎ノ門ダイビルイースト)
電話 (03) 3502-2061
FAX (03) 3503-1479



横浜港運協会

会長 藤木 幸太

〒231-8557 横浜市中区山下町279
横浜港運会館3F
電話 045 (201) 3295 (代表)

国民の祝日「海の日」

安全で安心な社会の実現に向けて!
公益財団法人 海上保安協会

実施事業：◎海上保安活動に係る普及啓発
◎海上防犯、安全確保、環境保全など
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目26番9号 新川イワビル7階
総務部(代表) 03-3297-7580 経理部 03-3297-7584 第一公益事業部 03-3297-7583 第二公益事業部 03-3297-7583
海上保安協会事務局 03-3297-7581 新聞事業部 03-5542-0630 厚生事業部 03-3297-7582 海保クラブ 03-3297-7603
海上保安友の会 03-3297-7589 FAX 03-3297-7590
協会ホームページ https://www.jcgf.or.jp 協会公式X @JCGF_umimaru
うみまるショップ https://うみまるショップ.jp 海上保安資料館横浜館 オンラインミュージアム https://jcgmuseum.jp

公益社団法人 燈光会

会長 久保成人
副会長 石崎康充
専務理事 山口和徳

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目14番9号
西新橋ビル3階
電話 東京 (03) 3501-1054
FAX 東京 (03) 3507-0727

一般社団法人 海洋会

会長 関根博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6
東京海洋大学 越中島キャンパス内
電話 03-6458-8215
FAX 03-6458-8214
E-mail honbu@kaiyo-kai.com
URL https://www.kaiyo-kai.com



海国日本の船員
後継者確保・育成を!

全日本海員組合

組合長 松浦満晴

〒106-0032 東京都港区六本木7丁目15番26号
電話 (03) 5410-8310
ホームページ https://www.jsu.or.jp Eメール kaiin@jsu.or.jp

釧路港湾協会

会長 遠藤浩昭

〒084-0914 釧路市西港2丁目101番地4
(三ッ輪運輸株式会社内)
電話 0154 (54) 3103

一般財団法人 東京港湾福利厚生協会

会長 永澤利雄
副会長 城田健二郎
副会長 高木延康
専務理事 齋藤博

〒108-0022 東京都港区海岸3丁目9番5号
電話 03 (3452) 6391 (代表)

更新を忘れないで
公益財団法人 海技資格協力センター

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル
電話 03-3238-9301

船員災害防止協会

会長 葛西弘樹
副会長 三木孝幸 副会長 高瀬美和子
専務理事 鶴山久

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5
海事センタービル4階
電話 (03) 3263-0918
FAX (03) 3263-0910

一般社団法人 日本船舶機関士協会

会長 庄司勉
副会長 井上孝昭 副会長 平松雅裕
専務理事 野毛哲也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル
電話 03 (3264) 2518 FAX 03 (3264) 2519
メールアドレス me-honbu@marine-engineer.or.jp
ホームページ http://www.marine-engineer.or.jp/

日本の海で 貴い命を守るため

MRJ 公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地(海事センタービル 7F)
電話 (03) 3222-8066 FAX (03) 3222-8067
URL: https://www.mrj.or.jp/ E-mail: v1161@mrj.or.jp/ 公式X: @Qsuke_MRJ

海技教育支援・奨学金
帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等
公益財団法人 海技教育財団

会長 内藤忠顕

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
電話 (03) 3288-0991 https://macf.jp

公益財団法人 海難審判・船舶事故調査協会

会長 明珍幸一
理事長 古城達也
専務理事 渡辺浩昭

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5
海事センタービル
電話 03-3512-8140
E-mail kaisin-f@maia.or.jp
URL https://www.maia.or.jp/

国民の祝日「海の日」

日本内航海運組合総連合会

会長 栗林宏吉

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4 (海運ビル)
電話 (03) 3263-4551 (代表)
FAX (03) 3263-4330 (共通)
https://www.naiko-kaiun.or.jp

一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 (海事センタービル)
電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
URL http://www.captain.or.jp

内航大型船輸送海運組合

会長 加藤由起夫
副会長 関光太郎
副会長 蓮実学

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4 (海運ビル)
電話 (03) 3263-3080

全国内航タンカー海運組合

会長 宍倉俊人

〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番4号
(海運ビル7階)
電話 (03) 3556-6521
FAX (03) 3556-6524
http://www.naitan.or.jp/

全国内航輸送海運組合

会長 後藤田直哉

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4 海運ビル
電話 03-3265-5835 FAX 03-5276-6962

全日本内航船主海運組合

会長 篠野忠弘
副会長 奥村恭史 副会長 井本隆之
副会長 松井康之 副会長 野間裕人

本部 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4 (海運ビル8F)
電話 03-3265-4808 FAX 03-3265-4806

関東沿海海運組合

理事長 榎本成男
副理事長 岩井榮三
副理事長 毛塚隆介

〒104-0042 東京都中央区入船1丁目9番6号 秋元ビル4階
電話 (03) 5543-0691代

船主団体 内航労務協会

会長 福田和志

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
海運ビル
電話 (03) 3264-4235

日本シップブローカーズ協会

理事長 吉田篤人

〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-5 京橋菊池ビル
Tel (03) 3561-1335 Fax (03) 3561-6107
URL: http://www.shipbrokers.jp/

国際船員労務協会

会長 綾清隆

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
海運ビル5階
電話 (03) 5213-4962
FAX (03) 5213-4969

日本沿岸曳船海運組合



理事長 北川栄太
事務局長 小林正幸

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1丁目18番27号
新大阪丸ビル新館804号室
電話 (06) 6312-1461・7969 FAX (06) 6312-0608
メール eisenkumiai@wing.ocn.ne.jp

船主団体 一洋会

会長 宮崎昇一郎

〒650-0024 神戸市中央区海岸通8番(神港ビルディング609号)
電話 (078) 515-6267
FAX (078) 515-6483

国民の祝日「海の日」

内航海運業 船員派遣業 船舶管理業
内外航代理店業 通関業 警戒船・補油立会業

 鶴見サンマリングループ
TSマリン株式会社

代表取締役社長 肥田達彦

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町3番15号 TSマリンビル
TEL 045-574-4666 FAX 045-574-4667

JHTA
一般社団法人 **日本港運協会**
会長 久保昌三

〒105-8666 東京都港区新橋6-11-10 港運会館
電話 (03)3432-1050 FAX (03)3432-5900
<https://www.jhta.or.jp>

川崎港運協会

会長 西修一 会長代行 三田久
副会長 梶谷賢一郎 副会長 奥村豊彦
副会長 各務毅 副会長 箕輪京之
常務理事 奈雲義典

〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38-1
電話 044-287-6092

 一般社団法人 **日本造船協力事業者団体連合会**
会長 小久保和文

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2(日本財団第二ビル)
TEL 03(5510)3161 FAX 03(3502)5533
URL:<http://www.nichizou.or.jp>
Blog(安全ひろば) <http://blog.canpan.info/nichizoukyou>

一般社団法人 **全日本船舶職員協会**
会長 中山隆志

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-7-12
清話会ビル2階B室
電話 03(3230)2651
FAX 03(3230)2653
E-mail:honbu@zensenkyo.com

情報誌海運 **KAIUN** 5月号
特集

**CCSの鍵を握る
液化CO2輸送の今**

ご注文は(一社)日本海運集会所 総務グループまで
TEL: 03-5802-8361 E-mail: order@jseinc.org

横浜港運関連事業協会

常任相談役 矢吹郁雄
会長 山下晃

〒231-0023 横浜市中区山下町279番地 横浜港運会館2階
電話 045(201)2196 FAX 045(201)2197
E-MAIL:info@cx69.or.jp


トヨフジ海運株式会社

〒476-8522 愛知県東海市新宝町33番地3
TEL (052) 603-6111(代)
<https://www.toyofuji.co.jp>

PORT OF TOKYO
「CONNECT TO THE FUTURE」
世界に誇るリーディングポート・東京港の未来へつなぐ

 **東京港埠頭株式会社**
代表取締役社長 丸山英聡


〒135-0064 東京都江東区青海二丁目4番24号
青海フロンティアビル10階
TEL(代表) 03-3599-7303

総合物流企業
 **フジトランス コーポレーション**

代表取締役会長 系井辰夫
代表取締役社長 津本昌彦

〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL 052-653-3111
FAX 052-652-7110

持続可能な未来へ、名古屋港の発展を支える

 **名古屋港埠頭株式会社**
代表取締役社長 河合伸和


〒455-0847 名古屋市港区空見町40
電話 (052) 398-1033
FAX (052) 398-1035

 **HØEGH AUTOLINERS**
ホーグオートライナーズ株式会社


代表取締役 Hubert Stephen
ヒューバート スティーヴン

(本社) 〒105-6318 東京都港区虎ノ門1-23-1
虎ノ門ヒルズ森タワー18階
電話: 03-5501-9155 FAX: 050-3156-3040
URL: www.hoeghautoliner.com


国民の祝日「海の日」

 **近海郵船株式会社**
代表取締役社長 関光太郎

本社 〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9
野村不動産芝大門ビル7階
電話 03-5405-8300
FAX 03-5405-8289

 **新日本近海汽船株式会社**
代表取締役社長 山崎敏克

本社 〒650-0021 神戸市中央区三宮町1丁目4番8号
(メットライフ神戸三宮ビル 6階)
TEL: (078) 599-9683 FAX: (078) 599-9685
店所 東京支店・宇部支店・九州支店


 **株式会社 大森廻漕店**
代表取締役社長 大橋直也
京浜支店長 大野敏男

〒108-0075 東京都港区港南2丁目13番34号 NSS-IIビル9階
電話 (03) 5781-3675

情報誌海運 **KAIUN** 4月号
Sea Japan 2026特集

**変化の時代を乗り越える
日本船用工業の成長戦略**

ご注文は(一社)日本海運集会所 総務グループまで
TEL: 03-5802-8361 E-mail: order@jseinc.org

 **旭商船株式会社**
ケミカルタンカーのオーナー・オペレーション
(9,000D/W 3~4隻 極東↔東南アジア)

代表取締役社長 手嶋洋平

〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-18
電話 (03) 6277-6621
FAX (03) 5545-4306

株式会社 協伸商会
会長 桂俊三

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-3
電話 (03) 3502-6681(代)

名和海運ホールディングス株式会社
名和海運株式会社
大港海運株式会社

名古屋市中区栄二丁目6番1号 RT白川ビル5階
電話 052-221-6100(代)
URL <https://meiwashipping-group.co.jp>

 **株式会社 イコース**
代表取締役社長 畝河内毅

〒745-0034 山口県周南市御幸通二丁目12番地
TEL.0834-27-6544 FAX.0834-27-6545

日伸海運株式会社
代表取締役社長 藤井紳介

〒103-0027 東京都中央区日本橋1丁目4番1号
電話 (03) 5204-1211(代)

 **日本フィールド&マリン
エンジニアリング株式会社**
Japan Field&Marine Engineering

社会の重要インフラや物流事業をサポートし、持続可能な未来の創造に貢献する
Contributing to a sustainable future

代表取締役社長 岡崎一正

本社 〒220-0073 横浜市西区岡野2-8-13
TEL 045-290-6085 FAX 045-290-3317
URL: <https://jfmeng.co.jp/>


静岡県海事広報協会
会長 柳川明

〒424-0942 静岡市清水区入船町11の1(鈴与株式会社内)
電話 080-8674-7609
FAX 054-352-3655

**港湾労災防止協会
横浜支部**
支部長 笹田照近

〒231-0811 横浜市中区本牧ふ頭1番地
TEL 045(622)5289
FAX 045(621)5992

国民の祝日「海の日」

 川崎近海汽船株式会社


代表取締役社長 山鹿 徳昌

本社 〒100-0013 東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
電話 (03) 3592-5800

三和交易株式会社

代表取締役 小口 淳司
取締役 小口 侑城

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-10東洋ビル
電話 (03) 3271-5710(代)

 鶴見サンマリン株式会社

取締役社長 宍倉 俊人

〒105-0003 東京都港区西新橋1-2-9
電話(03) 3591-1131(代)
FAX(03) 3591-1877
https://www.trsm.co.jp/

くみあい船舶株式会社

代表取締役社長 向江 信孝

東京本社 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1
霞が関コモンゲート西館37階
電話 (03) 6744-7530

清水港利用促進協会

会長 茂津目 敦


〒424-0821 静岡市清水区相生町6番17号
(静岡商工会議所 清水事務所内)
TEL (054) 353-3403
FAX (054) 352-0405

TSL タンカー株式会社

船舶備船及び船舶売買に関する仲介業


代表取締役 近藤 哲也

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目7番14号
AMビル4階
電話 (03)-3438-2441/4779/4889
FAX (03)-3438-1480
E-Mail brokers@tsltanker.co.jp

 川畑海運株式会社

代表取締役社長 上地 安芸輝

〒104-0045 東京都中央区築地4丁目5-9
築地安田第2ビル6階
電話(03)6264-3840 FAX(03)6264-3842
E-mail:kochi@kawahatamarine.co.jp
URL:http://www.kawahatamarine.co.jp

 株式会社サンオーシャン

港湾運送業・倉庫業・通関業・
外航海運業・内航海運業

代表取締役社長 高林 伸行

〒552-0021 大阪市港区築港3丁目6番1号
電話 (06) 6572-6051(代)
URL http://www.sunocean.co.jp/

情報誌 海運 KAIUN 3月号

特集

新卒採用の現場
— 人事のポリシーを訊く —

ご注文は(一社)日本海運集会所 総務グループまで
TEL: 03-5802-8361 E-mail: order@jseinc.org

 株式会社栗之浦ドック

代表取締役社長 成瀬 倉祥

〒796-8008 愛媛県八幡浜市栗野浦365
電話 (0894) 22-5100 (代表)
FAX (0894) 22-1166
E-mail:k.dock@basil.ocn.ne.jp
淡路工場
〒656-0543 兵庫県南あわじ市阿万塩屋町字戎谷2606番1
電話 (0799) 52-1111
FAX (0799) 52-3566

情報誌 海運 KAIUN 2月号

特集

海事産業の進化を支える
日本のスタートアップ

ご注文は(一社)日本海運集会所 総務グループまで
TEL: 03-5802-8361 E-mail: order@jseinc.org

株式会社商船三井さんふらわあ


代表取締役 社長執行役員 牛 奥 博 俊

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13
秋葉原ダイビル11階
TEL. 03-6866-7301 FAX. 03-6866-7371
https://www.sunflower.co.jp/top/

 伊勢湾海運株式会社

代表取締役社長 高橋 昭彦

〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番40号
TEL (052) 661-5181(代表)
FAX (052) 661-6121
URL https://www.isewan.co.jp/

 栗林物流システム株式会社

取締役社長 栗林 良行

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル3階
電話 (03) 5203-7951
FAX (03) 5203-2382

 四宮タンカー株式会社

代表取締役会長 四宮 齊
取締役社長 四宮 新二

〒774-0021 徳島県阿南市津乃峰町長浜440-3
TEL (0884) 28-0300~1
FAX (0884) 27-1993
E-mail: sinomiya@lily.ocn.ne.jp
URL: http://shinomiya-tanker.com

 ケイラインローローバルシップマネジメント株式会社

代表取締役社長 谷岡 弘茂

〒650-0024 神戸市中央区海岸通二丁目2番3号
電話 (078) 334-9700

 東京国際埠頭株式会社

代表取締役社長 森 達郎

本社 東京都港区海岸3丁目30番1号
☎03 (3452) 4411 (大代表)
物流事業本部 ☎03 (6275) 1801 (代表)
東京支店 ☎03 (3520) 2251 (代表)
横浜支店 ☎045 (441) 8121 (代表)
海運支店 ☎045 (621) 6601
川崎支店 ☎044 (276) 1141

 TSC Teranishi Shipping Corporation
寺西海運株式会社

代表取締役 寺西 孝

東京都千代田区神田司町2丁目4番地2
神田アーバンビルディング6階(〒101-0048)
TEL: 03-5209-2521 FAX: 03-5209-2522

 藤木企業株式会社

代表取締役会長 藤木 幸太
代表取締役社長 藤木 幸吉


本社 〒231-0003 横浜市中区北仲通2-14
TEL (045)211-1531(代)
http://www.fujikigroup.com/

TOKO LINE 東興海運株式会社

代表取締役社長 井高 建介

本社 〒650-0037 兵庫県神戸市中央区明石町32 明海ビル
電話 078-331-1511
東京事務所 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル
電話 03-3281-6661

https://www.tokoline.co.jp The Name to Trust

 宮崎産業海運株式会社


代表取締役社長 宮崎昇一郎

〒879-2442 大分県津久見市港町1番15号
電話 (0972) 82-3131
FAX (0972) 82-9497
営業所: 北九州オフィス

株式会社 東洋信号通信社

代表取締役社長 小島 信吾

〒231-0007 横浜市中区弁天通6丁目85番
宇徳ビルディング6階
電話 045 (510) 2349
FAX 045 (510) 2055
URL: http://www.toyoshingo.co.jp/

 村上秀造船株式会社

代表取締役社長 村上 英治

本社 愛媛県今治市伯方町木浦甲4641-2
電話 (0897) 72-0070 (代)
FAX (0897) 72-0484
http://www.murahide.com

三菱ケミカル物流株式会社

代表取締役社長 楠本 匡

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号(芝タワー)
TEL 03-5408-4800 FAX 03-5408-4558

国民の祝日「海の日」

環境と安全を大切にする
内航海運業 総合建設業
吉浦海運株式会社

代表取締役会長 吉浦 久行
代表取締役社長 吉浦 智之

本社 〒803-0823 北九州市小倉北区菜園場2-6-10
TEL 093-571-3650
FAX 093-571-3680

三洋海運株式会社

代表取締役社長 三木 孝幸

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1
電話 (03) 6250-6231
FAX (03) 6250-6230

曳船業・船舶代理店業
東港サービス株式会社

代表取締役社長 田宮 正康

〒108-0022 東京都港区海岸3-25-7
電話 03(3456)2000
FAX 03(3453)8855

~船舶管理業務・船員配乗業務~
Misuga 美須賀海運株式会社

ISO14001認証取得
【東京】 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目2番5号
飯田橋メインビル5階
TEL 03-3261-6725 FAX 03-3261-6699
【四国】 〒799-0422 愛媛県四国中央市中之庄町1692番地2
TEL 0896-28-1720 FAX 0896-28-1715
●海外拠点
【マニラ】 MISUGA KAIUN PHILIPPINES, INC.
【ロッテルダム】 MISUGA KAIUN HOLLAND B.V.
<https://www.misuga-kaiun.co.jp/>

曳船業
株式会社 新日本海洋社

代表取締役社長 鹿島 伸浩

本店 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-6-1
みなとみらいセンタービル19階
TEL 045-212-4050

海陸空一貫総合輸送
株式会社 辰巳商会

代表取締役社長 西 豊樹

本社 〒552-0021 大阪市港区築港4丁目1番1号
電話 (06) 6576-1821

曳船業・船舶代理店業
内海曳船株式会社

取締役社長 辰巳 曜一郎

本社 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目1番1号(神戸メリケンビル)
神戸営業部 電話 078-331-9666 FAX 078-331-9680
営業部 〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目2番2号(澤ビル)
業務部 〒712-8055 倉敷市南畝1丁目8番2号
事業所・出張所 水島・広島・堺・尾道・徳山・防府・宇部・松山・小松島・大分
<https://www.naikaitug.co.jp/>

FUKUJU
福寿船舶株式会社

代表取締役社長 奥村 恭史

本社 〒424-0822 静岡市清水区旭町5番9号
TEL 054-352-5126 FAX 054-352-5223
名古屋営業所 〒477-0031 愛知県東海市大田町後田1130
TEL 0562-33-8561 FAX 0562-33-8571
E-mail:shipping@fukuju-ship.co.jp

イースタン・カーライナー株式会社

代表取締役社長 長手 繁

〒140-0002 東京都品川区東品川2丁目5番8号
電話 (03) 5769-7611

中京海運株式会社

代表取締役社長 西尾 正彦

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目2番46号
電話 052(201)7776

株式会社 ヤマトネ

代表取締役社長 河原田 岩夫

〒135-8501 東京都江東区越中島1-2-21
電話 03(3820)1111
<https://www.yamatane.co.jp>

横浜検数検定部会

部会長 一般社団法人全日検横 濱支部
執行役員 支部長 坂手 紀
副部会長 一般社団法人日本海事検定協会横浜第二事業所
事業所 支部長 井上 宏
常任理事 株式会社 シンケン
横浜支社長 岡元 敏弘
常任理事 一般社団法人日本貨物検数協会横浜支部
支部長 鎌倉 景行
常任理事 一般財団法人新日本検定協会
横浜事業所 支部長 藤井 敏
〔事務局〕 〒230-0054 横浜市鶴見区大黒ふ頭15番地(全日検内)
TEL 045(503)7930

国民の祝日「海の日」

興洋海運株式会社

取締役社長 関口 不二夫

〒106-0032 東京都港区六本木三丁目1番17号 第2ABビル2階
TEL (03)3224-2600(代表)
URL <https://www.koyotky.co.jp/>

N&Nホールディングス(株)グループ
日本国際輸送株式会社

代表取締役社長 海野 政裕

本社 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター M2F
電話 045(212)5361 FAX 045(212)5363

名港海運株式会社

代表取締役
社長執行役員 高橋 広

本社 〒455-8650 名古屋市港区入船二丁目4番6号
電話 (052) 661-8111
FAX (052) 652-1680

株式会社 関西ライン

代表取締役社長 岡田 高明

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目16番14号
電話 (03) 5542-0661(代)

トピー海運株式会社

代表取締役社長 飯塚 剛

〒441-8075 豊橋市神野3丁目3-15
TEL (0532) 32-5115
FAX (0532) 32-5347

日本ノベンコ株式会社

代表取締役社長 谷口 哲也

本社 〒650-0037 神戸市中央区明石町32番地(明海ビル)
TEL (078) 334-2991 FAX (078) 334-2993
novenco@novenco.jp
長崎支店 〒850-0035 長崎市元船町2-8(元船さくらビル)
TEL (095) 824-5241 FAX (095) 824-5242
HP <https://www.novenco.jp>

OOC 株式会社 オフショア・オペレーション

代表取締役社長 井上 和男

東京都台東区東上野2丁目1番13号
TEL 03-3847-7551
<https://www.ooc ltd.com/>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月 正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
E-mail:info@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE
株式会社 ビーアンドエス・エンタープライズ

TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
E-mail:info@bands-k.com

シヨクユタンカー株式会社

代表取締役社長 外山 尚人

〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1(兼松ビルディング7F)
TEL (03)5579-5092 FAX (03)6880-4316

由良船舶株式会社

取締役社長 寺岡 洋一

本社 〒455-0037 名古屋市港区名港2-5-6
電話 (052) 661-2753
FAX (052) 661-2759

旭タンカー株式会社

代表取締役社長 春山 茂一

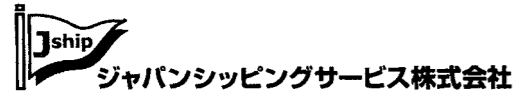
東京都千代田区有楽町1-13-2 第一生命日比谷ファースト17階
<https://www.asahi-tanker.com>

正栄汽船株式会社

代表取締役社長 檜垣 幸人

〒799-2111 今治市小浦町1丁目4番52号
電話 (0898) 41-9908(代)

国民の祝日「海の日」



ジャパンシッピングサービス株式会社

代表取締役 武田吉史

〒105-0004 東京都港区新橋一丁目1番1号
日比谷ビルディング2階
Tel: 03-3580-7733(代) Fax: 03-3580-7737
E-mail: info@jship.co.jp URL: https://www.jship.co.jp/

内航コンテナ輸送のパイオニア



代表取締役社長 井本隆之

〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地 神戸朝日ビルディング
TEL (078) 322-1600 FAX (078) 322-1620

海運業・貨物利用運送事業・船舶代理業
産業廃棄物収集運搬業



代表取締役 井上貴之

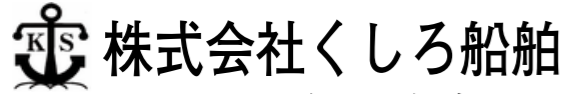
本社 〒542-0081 大阪市中央区南船場2丁目3番11号(田渕南船場ビル)
TEL: 06-6265-3866(代表) FAX: 06-6265-3872
東京支店 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目3番9号(日本橋アイティビル6F)
TEL: 03-3270-8727(代表) FAX: 03-3241-6051
支所 新居浜・千葉
出張所 徳山
URL: https://www.tabuchi-kaiun.co.jp/



代表取締役社長 栗林宏吉

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
新大手町ビル3階
TEL: 03-5203-7981 FAX: 03-5203-2331

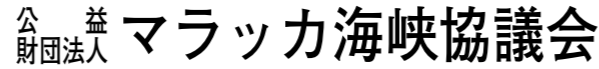
船員派遣事業 許可第42号 労働者派遣事業 許可派01-300978



代表取締役会長 細野勝陸

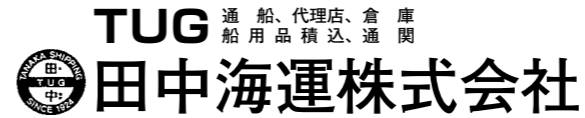
代表取締役社長 田村仁海

〒084-0929 北海道釧路市中鶴野18番11号
電話 (0154) 55-5377
FAX (0154) 55-5200
ホームページ http://kushiro-senpaku.main.jp/



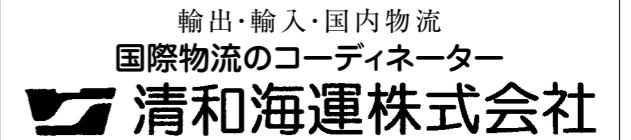
会長 内藤忠顕

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
(海運ビル)
電話 03 (6272) 8770
FAX 03 (6272) 8771



代表取締役 田中秀昭

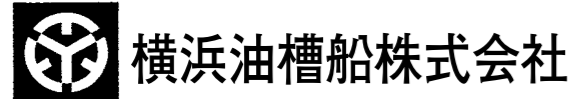
本社 〒640-8287
和歌山市築港3丁目2番地 営業所 和歌山県下全域
TEL (073) 433-3456 FAX 433-3463
www.tanaka-shipping.co.jp
E-Mail: masuei-maru@tanaka-shipping.co.jp



代表取締役会長 宮崎 總一郎

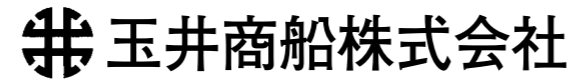
代表取締役社長 宮崎 祐一

本社 〒422-8061 静岡県駿河区森下町1-35 静岡MYタワー3階
TEL (054) 288-2741 FAX (054) 288-2780
https://www.seiwa-kaiun.co.jp



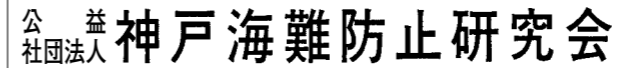
代表取締役社長 加藤光雄

〒108-0074 東京都港区高輪2丁目15番8号
(グレイスビル泉岳寺前)
TEL 03-3447-6681
FAX 03-3447-6682



代表取締役社長 清崎哲也

〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目2番16号
A-PLACE田町イースト5F
電話 (03) 5439-0260 FAX (03) 5439-0270
URL: https://www.tamaiship.co.jp



会長 高濱洋嘉
副会長 奥田成幸
副会長 井筒毅
副会長 小林靖匡
専務理事 奥原徳男

〒650-0034 神戸市中央区京町75-2(朝日生命神戸京町ビル)
TEL 078-332-2035 FAX 078-332-2037

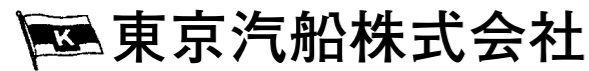


公益財団法人 日本船員雇用促進センター

会長 池田潤一郎

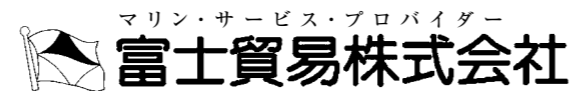
理事長 永松健次

〒104-0043 東京都中央区湊1丁目6番11号
TEL 03-3523-5990(代表) FAX 03-3523-5995
https://www.secoj.com/



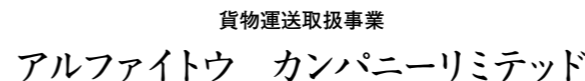
代表取締役
社長執行役員 齊藤宏之

〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル
電話 (045) 671-7711
FAX (045) 671-7737



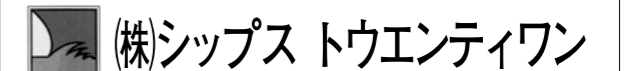
代表取締役社長 小池雄三

本社: 〒231-0801 横浜市中区新山下3丁目9番3号
電話 045-622-2686
支店・海外事務所:
神戸, 東京, 門司, ロンドン, ロッテルダム, ビレウス, カタール,
ドバイ, オマーン, シンガポール, マニラ, 香港, 上海,
釜山, ヒューストン, リオデジャネイロ



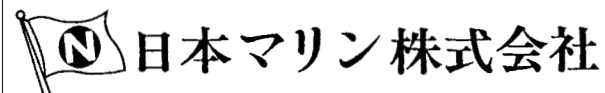
代表取締役 伊藤允孝

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目1番地3-500
大阪駅前第3ビル5階10号
電話 06-6341-4631 FAX 06-6341-4613
E-mail: maritime@alphaitoh.jp



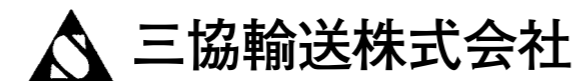
代表取締役
酒井耕平

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10
電話 (03) 3438-2351



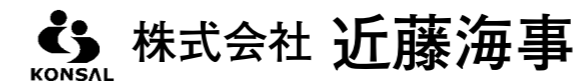
代表取締役社長 高橋健二

〒105-0004 東京都港区新橋5-22-10(松岡田村町ビル)
電話(03) 5402-7270
FAX(03) 5402-7280



代表取締役社長 坂本千代晴

〒104-0031 東京都中央区京橋1-5-12
マルヒロ八重洲ビル
電話 (03) 5299-5260
FAX (03) 5299-5261



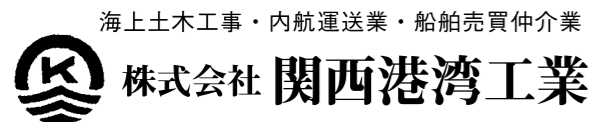
代表取締役社長 上川孝一

本社 北九州市若松区北湊町3番24号
TEL 093-761-1111 FAX 093-761-1001
HP http://www.konsal.co.jp/
東京支店 東京都千代田区岩本町二丁目11番3号
KATOビル7F
TEL 03-3865-1130 FAX 03-3865-1131



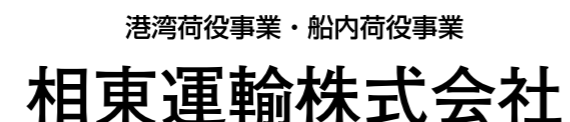
代表取締役 日浦公德

〒732-0052 広島県広島市東区光町1丁目12番20号
もみじ広島光町ビル4階
TEL (082) 568-1788 FAX (082) 568-6350



代表取締役 吉田英樹

〒554-0013 大阪市此花区梅香3丁目28番9号
TEL (06) 6462-7891



本社 東京都江東区東雲1丁目10番18号
TEL 03(3533)5142(代) FAX 03(3533)3429
営業所 東京港・船橋港・千葉港



代表取締役社長 関田拓生

本社 〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目1番3-1600
(大阪駅前第3ビル16階)
電話 06 (6344) 2068(代)
FAX 06 (6344) 2104
東京営業所 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目7番3号
電話 03 (3519) 5234



代表取締役社長 筒井健司

〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
新日石ビルディング3階
電話 (03) 6268-0391 FAX (03) 5223-2065
URL https://www.showa-nittan.co.jp

国民の祝日「海の日」

国民の祝日「海の日」

港湾防災防止協会
川崎支部

支 部 長 三 田 久
副 支 部 長 梶谷賢一郎
副 支 部 長 長 坂 圭 司
副 支 部 長 若 梅 義 勝
事務局主管者 山 田 賢 一

〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38-1 電話 044(287)6092

ナラサキスタックス株式会社

代表取締役社長 長江一男

本 社 〒053-8522 苫小牧市晴海町43番地1
TEL 0144 (30) 9173
運航部 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
(MSH日本橋箱崎ビル15階)
TEL 03 (4330) 0183

東慶海運株式会社

代表取締役相談役 長谷部安俊
代表取締役会長 長谷部圭治
代表取締役社長 長谷部哲也

〒799-2115 愛媛県今治市中堀4丁目219-1
電話 0898-41-6611 FAX 0898-41-6053
E-mail tokeikaiun@tokekai.co.jp
U R L http://www.tokeikaiun.com

千葉エーゼント会

会 長 藤 井 弘
副 会 長 石 川 敬 一 郎
副 会 長 阿 部 敏 美

事務局：〒260-0843 千葉市中央区末広3-1-20
千葉海運産業(株)内
電 話 043 (261) 3361
F A X 043 (265) 0087

早駒運輸株式会社

代表取締役社長 渡辺真二

〒650-0042 神戸市中央区波止場町5番4号
(中突堤中央ビル3F)
電 話 (078) 321-0151

栗林運輸株式会社

代表取締役社長 栗林宏吉

〒108-8448 東京都港区海岸3-22-34
電 話 (03) 3452-6111
F A X (03) 3452-6123

大新グループ
大新土木株式会社

代表取締役 新田 清剛

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3丁目3番13号
電 話 (03) 3669-2031(代)

通関業、港湾荷役事業、海運代理店事業
倉庫業（一般品、保税品）、一般貨物自動車運送業

伊予商運株式会社

代表取締役 岡部 孝

〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町大字北川原字塩屋西1126番地7
TEL 089-985-1381 FAX 089-985-0038
https://www.ichimiya.co.jp/iyosho

NSユナイテッド内航海運株式会社

代表取締役社長 遠藤 富士夫

本 社 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-3-2
大手町プレイス イーストタワー5階
電 話 (03) 6895-6500 FAX (03) 6895-6555
営業所 室蘭/君津/大阪/北九州/西日本/大分
U R L https://www.nsu-naiko.co.jp/

山根海運株式会社

代表取締役社長 新井 努

本 社 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-3-5
(三友常盤橋ビル7階)
電 話 (03) 6214-3951(代)
大 阪 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜3-1-20
事務所 (児島ビル5階)
電 話 (06) 6202-4931(代)

新田汽船株式会社

代表取締役 青山 彰

〒650-0024 神戸市中央区海岸通4番地 新明海ビル
電 話 (078) 331-2995

大同商運株式会社

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-7-5
日経茅場町第二別館
電 話 (03) 3664-1921

国民の祝日「海の日」

オーシャン東九フェリー
オーシャントランス株式会社

代表取締役社長 中内 司

〒104-0045 東京都中央区築地三丁目11番6号
築地スクエアビル4階
電 話 (03) 5148-0109
F A X (03) 5148-0129

STグロー株式会社

代表取締役 山本 龍明

〒734-0014 広島市南区宇品西4丁目1-66
TEL 082-256-5335 FAX 082-256-5336
URL https://www.stgrow.co.jp

2026年4月1日 山陽オイル株式会社は、
「STグロー株式会社」に社名変更いたしました。

GOYO 五洋海運株式会社

代表取締役社長 安藤 幹雄

〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番40号
電 話 052 (651) 5171(代)
F A X 052 (651) 5187

JTBA 日本貿易実務検定協会®

理事長 片山立志

〒163-0825 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル25階
(株)マウンテックジャパン内
TEL 03-6279-4730 FAX 03-6279-4190
https://www.boujitsu.com info@boujitsu.com



一般港湾運送業・通関業・海運代理店業・倉庫業
一般貨物自動車運送業・一種貨物利用運送事業(外航・内航・自動車)

京濱港運株式会社
KEIHIN KOUN CO., LTD.

代表取締役社長 菅井 重隆

本 社 〒221-0036 横浜市神奈川区千若町2-1-50
TEL 045-451-1911 FAX 045-451-0847
http://www.keihinkoun.com

ALL NIPPON CHECKERS CORPORATION
ANCC

—政府公認検数・検量・検査機関—

一般社団法人 全日検

代表理事長 宇和村 忠

本 部 〒108-0022 東京都港区海岸三丁目1番8号
TEL 03(5765)2113 FAX 03(5440)3396
https://www.ancc.or.jp
支 部 東北・北海道・横浜・東京・名古屋・北陸・神戸・大阪・九州・中国
分析センター 神戸

一般財団法人 全日本海員福祉センター

理事長 鈴木 順三

〒106-0032 東京都港区六本木7丁目15番12号 JSSビル3階
TEL 03-3475-5391 FAX 03-3475-5892
URL:http://www.jss01.jp Mail:jss0511@jss01.jp

SOC エスオーシー物流株式会社

社 長 寺 西 達 明

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台三丁目4番地
(龍名館本店ビル10階)
電 話 (03) 5298-2311
F A X (03) 5298-2320

大阪沖縄定航会

会 長 谷 光 義
副 会 長 大 澤 次 義
副 会 長 永 江 透

事務局 〒559-0032 大阪市住之江区南港南3-10-27
電 話 (06) 6612-2335

曳船業・船舶代理店業

S.T.K 芝浦通船株式会社

代表取締役社長 鈴木 孝行

〒108-0022 東京都港区海岸3丁目1番3号
電 話 03 (3455) 2161
F A X 03 (3455) 2164

神戸船舶株式会社

代表取締役 原田 正

〒650-0021 神戸市中央区三宮町3-1-3
電 話 (078) 391-0101(代)



矢吹海運株式会社

代表取締役社長 矢吹欣一郎

〒108-0023 東京都港区芝浦2-17-4
電 話 (03) 3453-1371

国民の祝日「海の日」

創業、明治25年
株式会社 栗林商会

代表取締役社長 栗林和徳

本社 〒051-0023 室蘭市入江町1番地19
TEL: (0143) 24-7022 FAX: (0143) 24-4193
URL: http://www.kurinet.co.jp/

アスト株式会社

代表取締役社長 石橋 明

本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目4番4号
野村不動産四ツ橋ビル10F
電話 (06) 6538-2781
FAX (06) 6534-0536
http://www.ast-inc.jp/

物流のトータルプランナー チッコー
株式会社 築 港

代表取締役社長 瀬戸口 仁三郎

本社 〒650-0024 神戸市中央区海岸通3番地(シッ神戸海岸ビル)
電話 (078) 391-6680(代)
FAX (078) 391-6674

Kobe Shipping Group
神戸 SHIPPING グループ



代表取締役
田 鍋 孝 明

神戸シップマネジメント株式会社

〒657-0835 神戸市灘区灘北通10丁目1番3号 Tel. 078-861-7286
http://www.kobeshipping.com/ Fax. 078-861-7208

通船・繋離船作業・海上防災・警戒船

東京シップサービス株式会社

代表取締役社長 清水 浩

〒108-0022 東京都港区海岸3丁目1番3号
(代表) TEL 03-3455-2121 FAX 03-3455-2167
(業務課) TEL 03-3455-1461 FAX 03-3455-2176

人と社会に貢献する
愛知海運株式会社

代表取締役社長 原 弘三

〒455-0036 名古屋市港区浜二丁目1番11号
TEL 052-651-3221 FAX 052-661-0801
URL https://www.aikai.co.jp/

KYOWA 協和海運株式会社

代表取締役社長 金津良紀

〒105-0004 東京都港区新橋1丁目1番1号
日比谷ビルディング4階
電話 (03) 5510-1991(代)
FAX (03) 5510-2002

東進エージェンシー株式会社

代表取締役社長 呉 融 煥

本社 東京都港区浜松町1-10-17 電話: (03)6778-1801
〒105-0013 KOYO BUILDING FAX: (03)6778-1822
大阪支店 大阪市中央区南本町3-6-6 電話: (06)6120-2100
〒541-0054 船場エコービル FAX: (06)6120-2098
https://dongjinagency.jp

泉海陸作業株式会社

代表取締役社長 高木延康

本社 〒104-0052 東京都中央区月島4丁目18番1号
電話 03 (3531) 1141(代表)
FAX 03 (3531) 1147

九州地方港運協会

会長 野畑昭彦 副会長 椎木耕造
副会長 八尋由紀 副会長 疋田功道
副会長 徳光昌己 副会長 大西英二郎

〒801-0852 北九州市門司区港町2番15号
電話 093(321)7231 FAX 093(321)7234

冷凍コンテナ保守管理
海上用冷凍機メーカー
キャリアトランジコールド(アメリカ)
サーモキング(アメリカ)各社・認可
スタークル(デンマーク)サービス店
ダイキン(日本)

株式会社 リーファースサービス

代表取締役 八和田歳明

〒231-0813 横浜市中区かもめ町4番地
電話 045(622)2043(代)
FAX 045(622)2035
URL http://www.reefer.jp

SHIMIZU FOREIGN ACCESS ZONE
清水港振興株式会社

代表取締役社長 高橋明彦

〒424-0206 静岡市清水区興津清見寺町1375番地の16
電話 (054) 369-6666
FAX (054) 369-5300

国民の祝日「海の日」

協同商船株式会社

代表取締役社長 福田正海

〒167-0051 東京都杉並区荻窪五丁目26番13号
(Daiwa荻窪ビル701)
電話 (03) 5397-7261(代)
FAX (03) 5397-6170

船舶管理・船員配乗のエキスパート
株式会社ユニバーサルマリン

会長 岡田 實
代表取締役社長 岡田京一郎

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-7-11
八光ビル
電話 03-3667-7444

船舶塗装・船舶荷役装置・海運
株式会社 ナカタ・マックコーポレーション

URL: https://www.nakata-mac.co.jp

本社 〒722-0012 広島県尾道市潮見町6-11
Tel:0848-20-1200 Fax:0848-20-1201
東京支社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目13-3
虎ノ門東洋共同ビル8階
Tel:03-5510-8111 Fax:03-5510-8112

全日本ワッチマン業協会関東支部

支部長 栗竹俊幸

〒231-0023 横浜市中区山下町279 (横浜港運会館)
電話 045-664-3397

オールジャパンサービス株式会社 ジャパンターナルサービス株式会社
関東警備株式会社 内外サービス株式会社
大洋港企株式会社 日本警備株式会社
株式会社大日警横浜支店 株式会社リスコム

大型船、小型船、作業船、
湾岸荷役設備等、解体します
(スクラップ高価買取)

株式会社 宮地サルベージ

〒764-0021 香川県仲多度郡多度津町堀江五丁目7番地
TEL 0877-32-4151 / FAX 0877-32-4152
http://www.miyajisal.co.jp/

トラックは生活と経済のライフライン
一般社団法人 兵庫県トラック協会

会長 木南一志

〒657-0043 神戸市灘区大石東町2丁目4番27号
電話 (078) 882-5556
FAX (078) 882-5565

兵庫県港運協会

会長 久保昌三

〒657-0854
神戸市灘区摩耶埠頭1番1 神戸港運会館ビル3階
電話 078-802-1840

大東通商株式会社

代表取締役社長 阿久沢康夫

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町6番3号
TEL (03) 5919-6106
FAX (03) 5919-6116

曳船業・海上防災事業
東京タグセンター

〒108-0022 東京都港区海岸3丁目29番1号
東京都港湾局芝浦内貿2号上屋
電話 営業部 03 (3455) 7251
業務部 03 (3451) 1761
FAX 03 (3455) 7254

大日インベスト株式会社

代表取締役 石坂公孝

〒650-0037 神戸市中央区明石町18番地
(大日明石町ビル9階)
電話 (078) 321-2301

KRC 川崎港運関連事業協同組合

代表理事 真中伴典
副理事長 中村祐規

事務局 〒210-0865 川崎市川崎区千鳥町7-1-505
電話 044 (299) 3333
FAX 044 (276) 1353

海祥海運株式会社

代表取締役社長 川崎晶二

〒105-0004 東京都港区新橋6-16-10
(御成門BNビル8階)
TEL: (03)5776-1750 FAX: (03)5776-1752

千葉港運協会

会長 篠崎 尚史
副会長 梶 浩一
副会長 大西 智毅
副会長 小島 生年

〒260-0024 千葉市中央区中央港1丁目10番10号
電話 043 (248) 1151

愛媛内航海運組合連合会

会長 越智 崇
副会長 瀬野 和博
副会長 井下 光一
副会長 多田 憲司

〒790-0022 松山市永代町13番地(松山第2電気ビル3階)
TEL 089-943-6630 FAX 089-941-5276

千葉港港湾運送事業協同組合

理事長 梶 浩一
副理事長 坂西 明良
副理事長 阿部 敏美

〒260-0024 千葉市中央区中央港1丁目10番10号
千葉港港運会館内
電話 043-241-6431
FAX 043-241-5532

清水港運協会

会長 西尾 忠久

〒424-0942 静岡市清水区入船町11-1
(鈴与株式会社内)
電話 080 (8674) 7609
FAX 054 (352) 3655

一般財団法人 船員保険会

会長 岡部 修

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル6・7階
電話 03(3407)6061 FAX 03(3407)6597
URL <https://www.sempos.or.jp>

公益社団法人 神奈川港湾教育訓練協会

会長 藤木 幸太

〒231-0811 横浜市中区本牧ふ頭1
電話 (045) 621-5991
FAX (045) 621-5992

横浜港湾荷役協会

会長 飯泉 勝也
会長代行 藤木 幸吉

〒231-0023 横浜市中区山下町279(横浜港運会館)
電話 045 (671) 5551

岡山県西部海事振興会

会長 中谷 庄吾

〒712-8056 倉敷市水島福崎町2-15
電話 086-444-7750

情報誌 海運 KAIUN 1月号

特集

海事産業・展望2026

ご注文は(一社)日本海運集会所 総務グループまで
TEL: 03-5802-8361 E-mail: order@jseinc.org

一般社団法人 日本海運集会所

会長 内藤 忠顕
理事長 針谷 雄彦

〒112-0002 東京都文京区小石川2-22-2
(和順ビル)
電話 03 (5802) 8361

LOOK BACK 1989年9月号から KAIUN

vol.16

数字を自動選出する「抽選アプリ」を使い、出た数字のバックナンバーを紹介する連載版「LOOK BACK KAIUN」。今回出たのは「744」。

雑誌海運744号は1989(平成元)年9月号。この号に気になる広告があった。三井造船(現三井E&S)の1ページ広告で、「いま、三井の船がおもしろい。」というキャッチコピーとともに6隻の船が紹介されている。

三井E&Sはすでに造船から撤退したが、その傘下で商船の設計・開発を手掛けた三井E&S造船は常石造船完全子会社となり、現在は常石ソリューションズ東京ベイとして設計エンジニアリングサービスなどを提供している。当時どのような“おもしろい船”を売りにしていたのか、順に見ていこう。

まずは「次世代型のSSC大型クルーザー客船」だ。SSCはSemi-Submerged Catamaranの略で、半没水型双胴船を意味する。船体の喫水線付近を絞り込むことで波の影響を受けにくくしており、揺れが少ないという特徴がある。調べたところ、三井造船は1970年からSSCの研究開発に着手し、高速旅客船「シーガル」や調査観測船「ことざき」、海中作業実験船「かいよう」などを建造してきたという。

広告に掲載されたイメージはイラストで、船底に魚雷型の構造物が2つ付いており、船体上部は角張った直線的なフォルムをしている。船のサイズは分からないが、当時、大型客船建造の構想があったのだろうか。

2隻目は「ディーゼル機関の“三井ホーバークラフト”」。ホーバークラフトとは、高速気流を水面と艇体の間に送り込んで船を浮上させ、水の抵抗を低減して高速で航行する船を言う。

雑誌とは時期が離れるが、三井造船のホーバークラフトが日本海運集会所ウェブサイトの「竣工船フ

ラッシュ」に掲載されていた。2002年に竣工した「ドリームサファイア」という船で、大分空港一大分市内間を運航していた。同年、大分県はサッカーワールドカップの開催地に選ばれており、旅客輸送の増加を見据えて船を建造したそうだ。三井造船は国内唯一の商業用ホーバークラフトメーカーだった。

3隻目は「河川用PR船“三井スーパーアクバス”」だ。広告内の写真の船体には小さく「すみだがわ」という船名が見える。これをヒントに資料を探したところ、船舶技術協会がかつて発行していた雑誌「船の科学」に紹介記事があった。

記事によると、「アクバス」は三井造船が開発した型式で、「アフトスケグ付きエアークッション艇(Air Cushion Vehicle with Aft Skegs)」のイニシャルから名付けられた。アフトスケグとは、船尾側に設けられたヒレ状の構造物のこと。アクバス船型は高速で走っても「ひき波」がほぼ発生しないため、河川の航行に適しているという。写真の「すみだがわ」は1989年3月に完工し、都内の低地河川を中心に視察船として活躍したそう。

4隻目は潜水艦のような形の「水中観光船“三井コーラル・ビューワー”」だ。写真の船体には「SUBMARINE Jr.」とある。海洋産業研究会の資料によると、本船は半潜式で船体の海中部分に窓があり、乗客は座席から海中を見渡すことができた。ビーチリゾートのアクティビティとして納入され人気を博したという。現在は三井造船の100%出資会社である新潟造船(現常石三保造船)が建造した同型後継船「サブマリンJr.II」が稼働している。

残る2隻の「新船型クルーザー“Seabullet”」と「ユニークな双胴船型“三井スーパーマラン”」は詳しい資料が見つからなかったため割愛するが、三井造船が高速艇やレジャー関連でも幅広いラインアップを揃えていたことが分かる。

海運の広告は、船の絵よりもキャッチコピーが目立つようデザインされている。「おもしろい」という言葉は楽しい、興味深い、魅力的と様々なニュアンスを含む。「いま、三井の船がおもしろい。」という簡潔な表現からは、船に対する自信や誇りが感じ取れる。

現在、造船業界では環境対応船や自律運航船が開発され、デジタル技術の導入も進む。また、日本は官民を挙げ造船再興に大きく舵を切っている。業界のさらなる発展とともに、日本が誇る“おもしろい船”が今後も生まれ続けることを楽しみにしている。

読者アンケートはウェブに移動しました

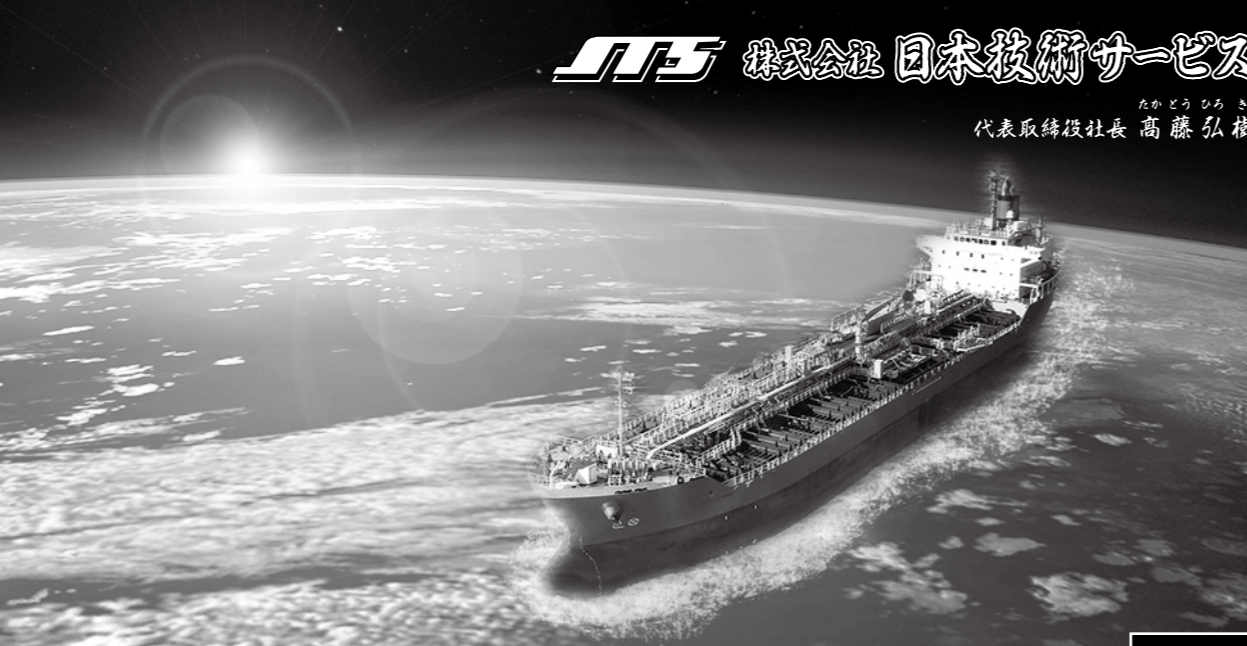
クリックでOK。ダウンロード不要です。

<https://www.jseinc.org/kaiun/index.html>

図書カードプレゼント!



JTS 株式会社 日本技術サービス
たかどうしあき
 代表取締役社長 高藤弘樹



ケミカル船の化学洗浄は弊社にご相談ください
 《一般船舶の工業洗浄および陸上機器洗浄全般も含む》

全国出張



化学洗浄
 本社：〒745-0125 山口県周南市大字長穂 1316-17
 TEL.0834(88)2395 FAX.0834(88)2396
 宇部出張所、岩国工場、西条工場

KAIUN スタッフ通信

先 日、旅先で観光ツアーに参加した。参加者の中にベルギー人の青年がいた。母親が日本人だという彼は日本語も堪能で、社交性溢れる盛り上げ上手。彼のおかげでツアーはとても楽しいものになった。その翌日、なんと別の町のコンビニ前で再会。嬉しい偶然に写真を撮り、連絡先を交換して別れた。ところがその夜、繁華街でまたしても彼に遭遇！私は夕食の予約があったため、後ほどカフェで合流する約束をした。小一時間後に訪ねてみるとそこには人影が3人。なんと、ツアーで一緒だったカップルも彼に偶然会い、合流していた。全員テンションが上がって、閉店まで色々な話をした。帰りに際に店名が「縁」だと気づいてまた大笑い。いい旅の思い出です。(七)

人 との縁は不思議なものだと感じる出来事が続きました。海運会社のイベント取材の際、担当者の方が前職時代の同僚でした。また、造船会社の記者発表では、司会を務めていたフリーアナウンサーが実家の近所に住んでいた同級生でした。仕事の現場で再会するとは思っておらず、とても驚きました。久しぶりの再会でしたが、互いに当時の記憶がすぐによみがえり自然と会話が弾みました。自分では一度途切れたと思っていた縁が、どこかでつながり続けていたのかもしれない。日々の取材では多くの人と出会います。その一つひとつの出会いを、改めて大切にしていきたいと感じています。(A)

先 日、千葉県1泊2日の旅行で「市原ぞうの国」に行ってきました。ここではぞう5～6頭が様々な芸を見せるパフォーマンスタイムがあるのですが、サッカーをしたり踊ったり、絵を描いたりとあまりに器用で驚きました。絵も想像を超えるクオリティで、どうやって教えたのか不思議でたまりません。触れあいイベントも多く、ぞうに乗ったり、ぞうの鼻に現金を手渡ししてぬいぐるみを購入したり、一通り楽しみました。人々がぞうの前に列を成して次々とお札を差し出し、ぞうが鼻の先で器用にお札を受け取ってカゴに詰めていくあの光景は、他では見られないでしょう。とても良い体験でした。(T)

**読者アンケートは
ウェブに移動しました**
 クリックでOK。ダウンロード不要です
<https://www.jseinc.org/>
図書カードプレゼント!

購読のご案内(お申込みは下記電話番号、HPまで)
 ・年間購読料 18,480円(税抜価格16,800円/送料込)
 ・1冊ごとの購入 1,540円(税抜価格1,400円/送料込)
 ・なお、当所会員には1冊無料進呈、追加購入1割引

2026年7月1日発行
KAIUN (海運)
 2026年7月号
 本号 **1,540円**(税抜価格1,400円/送料込)
 発行人 針谷雄彦
 発行所 一般社団法人 **日本海運集会所**
 〒112-0002
 東京都文京区小石川 2-22-2 和順ビル3階
 電話 03(5802)8365
 FAX 03(5802)8371
 ホームページ <https://about.jseinc.org/>
 振替口座 00140-2-188347
 印刷所 福田印刷工業株式会社

本誌中、寄稿は原則、著者の意向を尊重して掲載しており、その内容を海事情報事業グループ(KAIUN編集部)が保証するものではありません。また寄稿は編集部あるいは日本海運集会所の見解・意見・主張を必ずしも代表するものではありません。本誌は利用者ご自身でのご覧いただくものであり、本誌の全部又は一部(本誌ウェブサイト掲載の有無を問いません)についての、無許諾の複製・ダウンロード・編集・加工・二次利用・転載・第三者への提供などを禁じます。

世界の海を測る 気象観測装置のプロフェッショナル

aneos

自然を測り、暮らしを守る

風向風速計自動切替器 SS10型

船体構造の影響で、風の乱流が起こる場合・・・
 2箇所に取り付けられた風向風速発信器の風速値を比較し、観測に最適な発信器の信号を自動的に選択する事が可能です。

- 
Auto Select
 2台自動切り換え
 (マニュアル設定も可能)
- 
**W150
H100
D111mm**
 コンパクト設計で
 容易に組込み可能
- 
LED
 暗所でも見やすい
 LED表示
 (調光機能付)
- 
For backup
 機器の故障の備えにも
- 
ANEOS compatible
 ANEOS製
 アナログ風向風速計と
 組合せてきる



Webサーバー内蔵 データロガー WU101M型

風向風速データをWeb化！船内LAN経由で、どこからでもリアルタイムに閲覧することができます。計測したデータは内部メモリにも保存され、バックアップとして使用できます。また、風速警報機能も搭載しています。

- 
Cyber Resilience
 サイバーレジリエンス対応
 デジタル攻撃から
 システムを守ります
- 
**Web
Web Server**
 Webサーバー機能搭載
 PCブラウザから閲覧可能
- 
**W N
S E**
 真風向風速
 相対風向風速
 表示対応
- 
LAN
 船内LAN対応
- 
**NMEA
0183**
 NMEA 0183対応



ANEOS株式会社

アネオス

営業本部	〒152-0001 目黒区中央町1-5-12	TEL 03-5768-8251(代)	FAX 03-5768-8261
東北営業所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-9-11	TEL 022-227-7805(代)	FAX 022-264-4145
関西営業所	〒532-0012 大阪市淀川区木川東3-5-21	TEL 06-6309-8251(代)	FAX 06-6309-8268
九州営業所	〒814-0012 福岡市早良区昭代1-18-8	TEL 092-833-3311(代)	FAX 092-833-3310



海の惑星とともに、次へ。

BLUE ACTION MOL



海は、地球の表面の71.1%を占める。世界中の国々が海でつながり、海運をはじめとする経済活動は人類の発展を支える基盤となってきた。海とは、この地球の可能性そのものだ。私たちが生きるこの星は、「海の惑星」なのだと思う。海からの視点を持たば、そこにはまったく違う未来が広がる。つねに海とともに進んできた私たちは、そのポテンシャルを誰よりも知っている。人類が共有するこの大きな価値を引き出して持続的な成長をつくりだしていくことこそ、商船三井グループの使命だ。いまこそ私たちは、自らの枠を超えてアクションを起こす。海運を基盤としながら、そこで得た知見を生かして、海を起点とした社会インフラ企業へとフィールドを拡張していく。チャンスがあるなら、すべてに挑もう。ここから、新しい希望をつくろう。

商船三井グループのサステナブル活動「BLUE ACTION MOL」 www.mol.co.jp



MOL 商船三井

1,540円 (税抜価格1,400円/送料込)

雑誌 89379-07



4912893790769
01400